

2 平成 28 年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 青少年の体験活動の充実
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 地域全体で子どもを育む活動の充実
- オ 家庭教育支援の充実

生涯学習課

地域産業と学校の連携による地域人財育成事業

[事業目的及び概要]

若年層の県内定着・回帰のため、教員、児童生徒及び保護者の地域産業に対する理解を深めることにより、郷土に愛着と誇りを持ち、積極的に地域に関わろうとする人財を育てる事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 地域産業と学校の連携・協働による地域人財の育成(地区実行委員会委託事業)

ア 各地区連携会議の開催(6地区各1回)

県内6地区において、地域産業と学校の相互理解を深め、キャリア教育の在り方や連携・協働の進め方について情報交換を行うため、高等学校教職員、企業、PTA、商工団体等による会議を開催した。※各地区就職促進懇談会と連携して実施

地区	日時	場所	参加者数
下北	7/3(水)15:00~19:00	むつグリーンホテル	60名
東青	8/24(水)13:30~15:30	アップルパレス青森	105名
中南	8/29(月)14:00~16:30	弘前プラザホテル	58名
三八	11/29(火)13:00~15:30	八戸プラザホテル	80名
西北	2/7(火)14:00~15:30	五所川原市民学習センター	55名
上北	2/15(水)14:00~16:00	十和田富士屋ホテル	42名

イ 各地区教育支援見本市の開催(6地区各1回)

学校におけるキャリア教育の充実のため、企業・NPO等が実施している教育支援活動(出前授業・インターンシップ・体験活動等)の具体的な取組を紹介し、教職員や学校支援ボランティアと企業・NPO等の交流を行った。

※総合社会教育センター講座「学校と地域の協働実践セミナー」と連携して実施

地区	日時	場所	参加者数	出展企業数
三八	6/24(金)16:00~17:00	八戸市福祉公民館	40名	12社
下北	7/7(木)16:00~17:00	下北文化会館	61名	13社
中南	9/28(水)16:00~17:00	弘前市総合学習センター	52名	18社
西北	10/27(木)16:00~17:00	五所川原市情報学習センター	53名	11社
東青	11/1(火)16:00~17:00	県総合社会教育センター	71名	21社
上北	1/27(金)11:30~13:00	青森県立三沢航空科学館	44名	12社

ウ 子ども職場参観日の実施支援

児童生徒の地域産業に対する理解を深めるため企業・NPO等が行う「子ども職場参観日」実施マニュアルを作成し、ホームページ上で公開した。

(2) 地域産業と学校の連携・協働に向けた啓発

ア 未来のふるさとを創り出す教育フォーラムの開催

学校と地域産業の相互理解のもとでキャリア教育の充実・発展を図り、学校と地域や企業等の連携・協働による人財育成を進めるため、関係者によるフォーラムを開催した。

○開催日：11/11(金)13:00~16:00

- 会 場：青森県総合社会教育センター
- 対 象：学校教職員、P T A関係者、企業・事業所・N P O等の職員、県及び市町村職員等
- 参加者：179名
- 内 容：

- ・「あおもりキャリア教育応援企業表彰」表彰式(受賞企業・事業所等数：27社・団体)
- ・パネルディスカッション
 テーマ 「あおもり就職の魅力」～地元定着を目指して今できること～
 コーディネーター 石岡 百合子(キャリアコンサルタント)
 パネリスト 高橋 和雄(青森県立弘前工業高等学校長)
 大溝 雅昭(青森県高等学校P T A連合会長)
 日野 勲(青森青年会議所理事長)
- 情報提供 「なるほど地元就職」リーフレットについて
 (青森県商工労働部労政・能力開発課)

- ・講演
 講師：一般社団法人アスバシ教育基金代表理事
 N P O法人アスクネット創業者・顧問 毛受 芳高
 演題 「明日の青森の担い手を育てる教育をつくろう！～人口減少を乗り越えるためのキャリア教育の改善について～」
- ・提案！我が社の教育支援
 内容 企業の出前授業、職場体験についてパネル展示を実施
 出展企業・事業所等数 27社・団体(表彰企業)

イ 教育支援プラットフォーム関係者のコーディネート能力を高める研修講座の開催(委託事業)
 学校と地域産業の連携・協働を促進する役割を担う教育支援活動推進員や学校支援ボランティア等を対象として、キャリア教育に関する知識を深めコーディネート能力を高めることをねらいとした研修講座を開催した。

○講師 N P O法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢みゆき

地区	日時	場所	参加者数
上北	9/14(水) 13:00～16:00	青森県立三沢航空科学館	22名
中南	9/15(木) 13:00～16:00	弘前合同庁舎	21名
東青	9/16(金) 13:00～16:00	県総合社会教育センター	16名

[成果と課題]

県内6地区に実行委員会を設置し、青森県教育支援プラットフォームの仕組みを活用したキャリア教育実践活動を実施してきた。また若者の地元定着に向けて、地域産業と学校の連携・協働によるキャリア教育の在り方を考えるため、教員と企業・保護者等による「連携会議」やフォーラムを開催、企業・N P O等の教育支援活動の取組を紹介する「教育支援見本市」を開催し、学校・P T A・企業等の連携・協働による相互理解を深めることができた。

今後引き続き、若年層の県内定着に向けた人財育成に向けて、企業・学校・P T A・地域・関係機関等の相互理解と連携によるキャリア教育の取組が必要となる。また、学校教育支援を考えている企業等に対するフォローやアプローチ、企業と学校の橋渡し役となる教育支援活動推進員や学校支援ボランティア等を中心とした取組が必要である。

子どもの読書活動推進事業

[事業目的及び概要]

「青森県子ども読書活動推進計画(第三次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育てるため、家庭・地域・学校が連携して、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及啓発を進める取組を展開する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 乳幼児期からの読み聞かせ活動の推進

ア 小学校における読み聞かせボランティア活動の促進

小学校で開催される研修会等が、学校P T Aに対し読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さについて理解を深める機会となるように、15校に「親子ふれあい読書アドバイザー」を派遣した。

	学校名	実施日	派遣 アドバイザー	内 容	参加 者数
1	おいらせ町立 木ノ下小学校	6/14 (火)	岩本 ヤヨエ	読み聞かせボランティアを対象に、お話会の準備、絵本の選び方・持ち方・読み方、読み聞かせのテクニックなど	7名
2	青森市立 古川小学校	6/14 (火)	伊藤 理子 稲葉 麻美	図書ボランティア及び保護者を対象に、読み聞かせのアドバイス、選書、留意点、読み聞かせの基本、ボランティアの仲間づくりの仕方など	9名
3	青森市 浪館小学校	6/24 (金)	三浦 恵美	図書ボランティアを対象に、読み聞かせの実演、読み聞かせの際の留意点、絵本等の紹介など	7名
4	つがる市立 育成小学校	7/5 (火)	北澤 由美子	参観日において保護者、職員を対象に、読み聞かせの楽しみ方、読み聞かせのコツ、読みきかせの実演など	18名
5	弘前市立 桔梗野小学校	7/6 (水)	信太 裕佳子 伊藤 恭子	図書ボランティア、保護者、教員を対象に、読みきかせの実演と留意点、選書の仕方など	12名
6	八戸市立 城北小学校	7/11 (月)	千田 かつ子	図書ボランティアを対象に、年齢に合わせたおすすめ絵本、読み聞かせの手順や留意するものなど	15名
7	野辺地町立 馬門小学校	7/12 (火)	白戸 羊子	参観日のPTA家庭教育講演会として、読み聞かせの実演、「親子ふれあい読書の大切さ」「読書の大切さ」について講話	75名
8	弘前市立 第三大成小学校	7/12 (火)	高嶋 敬子	参観日において親子、職員を対象に、読み聞かせ、希望者を対象に読み聞かせのポイント等	54名
9	十和田市立 ちとせ小学校	7/19 (火)	乙供 亮子	低学年への読み聞かせ、保護者や図書ボランティアを対象とした講話	127名
10	板柳町立 板柳北小学校	7/28 (木)	高嶋 敬子	教員を対象に、発達段階に応じた読み聞かせ、読み聞かせをするときの注意など	16名
11	風間浦村立 風間浦小学校	9/15 (木)	越膳 昌子	放課後子ども教室職員の研修として、読みきかせの実演	34名
12	青森市立 浪打小学校	11/1 (火)	三浦 恵美	保護者、地域、放課後児童会支援員を対象に、読みきかせの実演、読み聞かせの際の留意点、おすすめの本の紹介	16名
13	五戸町立 五戸小学校	11/8 (火)	前田 敏子	図書ボランティアの研修として、読み聞かせの大切さと楽しさ、読み聞かせをする際の準備と手順、選書のコツ、練習の際に気をつけることなど	7名
14	つがる市立 車力小学校	11/16 (水)	北澤 由美子	全校児童及び教職員を対象に、読み聞かせの実演、関連図書の紹介、つがる市立図書館の紹介	47名
15	中泊町立 中里小学校	12/1 (木)	千葉 敦子	参観日におけるPTA主催「教育講演会」として、児童を含めた保護者・教師への読みきかせの実演、講話	298名

イ 「親子ふれあい読書アドバイザー」の新規養成及び読み聞かせ実践者のスキルアップ
 青森県読書団体連絡協議会の各地区事務局と連携した研修会を開催し、親子ふれあい読書アドバイザーを新たに15名養成、登録した。(累計430名)

地区	開催日	会場	内容	受講者数	実参加者数
中南	10/4 (火)	平川市文化センター	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・スキルアップ編 ～実践のコツと選書～ 講師：西村 恵美子 (青森県読書団体連絡協議会会長)	29名	47名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・ストーリーテリング 実践のコツ 講師：西村 恵美子 (青森県読書団体連絡協議会会長)	35名	
三八	10/4 (火)	デーリー東北新聞社	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・アドバイザーとしての心構え、 ・読み聞かせをするための留意点と構成 講師：三浦 恵美 (J P I C読書アドバイザー)	31名	32名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・ブックトークについて(講義と実演) ・県立図書館を大いに利用するために 講師：妻神 昭子(青森県立図書館主任司書)	28名	
西北	9/22 (木)	五所川原市立図書館	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・「本をきらいな子はいない」 講師：北澤 由美子(車力村読書サークル)	30名	30名
			〈読みきかせの実演〉 広田 吾郎(五所川原市立図書館) 北嶋 晴美(五所川原エフエム) 〈シンポジウム〉 ・活動紹介 対馬 てみ(中泊町 潮風おはなし会) 石岡 夏美(鶴田町教育委員会) 齋藤 愛子(鮎ヶ沢町教育委員会) 山本 幸子(読み聞かせふかうら・だんぶり) 野宮 睦子(板柳町民図書館) 平川智枝子(つがる市読書推進連絡会) 長尾 直美(五所川原市立図書館)	30名	
東青	10/22 (土)	蓬田村ふるさと総合センター	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・アドバイザーとしての活動や心構えについて 講師：高嶋 敬子 (J P I C読書アドバイザー)	11名	18名
			〈蓬田のもったいないばあさんとヨモギの工作〉 ・工作教室 講師：泉谷 ちる子(赤いとまと代表)	17名	
上北	10/29 (土)	十和田市民図書館	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・保護者会などでお話しする内容や方法など 講師：語りの会「こま草」	24名	24名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・読み聞かせのポイント、ブックトーク、実演 講師：語りの会「こま草」	24名	

28年度事業の実績

地区	開催日	会 場	内 容	受講者数	実参加者数
下北	1/15 (日)	むつ市立図書 館	〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉 ・アドバイザーとしての活動や心構えについて 講師：越膳 昌子(読み聞かせボランティア ネットワーク「おはなしの木」)	17名	21名
			〈読み聞かせ研修会〉 ・読み聞かせの基礎や選書、プログラムの作り方 講師：越膳 昌子(読み聞かせボランティア ネットワーク「おはなしの木」)	16名	
計					172名

ウ 啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」の活用促進

乳幼児の保護者等に向けた啓発のため、小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」を市町村が行うブックスタート事業、幼稚園・保育所等で開催される保護者研修会や読み聞かせ研修会等にテキストとして提供した。また、研修会等の主催者の希望に応じ、「親子ふれあい読書アドバイザー」を講師として紹介した。

○小冊子提供数 延べ6,729冊

- ・ブックスタート事業等への提供：11市町村 5,330冊
- ・保護者研修会等への提供：14か所(12市町村) 885冊
- ・親子ふれあい読書アドバイザーの紹介 延べ5人
- ・小学校への提供(小学校へのアドバイザー派遣)：514冊

(2) 読書離れへの対応

ア 研修会等の開催

高校生の読書活動の推進のため、青森県高等学校教育研究会図書館部会等と共催し、図書委員を対象とする研修会を開催した。

○開催日：7/5(火)

○場 所：県立図書館 研修室

○参加人数：320名

○内 容：講演「迷わず進め正直の道 CATCH YOUR DREAM」

講師 大場 満郎(アースアカデミー大場満郎冒険学校長)

イ あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、秀逸な紹介文を選び表彰及びホームページ等で紹介した。

○募集期間：7/1(金)～9/9(金)

○応募数：4,306点(中学生の部40校1,467点、高校生の部35校2,839点)

○優秀作品選考審査会：10/24(月)、1/11(水)

○受賞者一覧

〈中学生の部〉

	書 名	著者名	学校名	学年	氏名
最優秀賞	河北新報のいちばん長い日	河北新報社	青森市立南中学校	2	小松 佳祐
優秀賞	下町ロケット	池井戸 潤	五戸町立五戸中学校	3	奥山 敬之
優秀賞	生きる意味	上田 紀行	藤崎町立藤崎中学校	3	成田 汐花
優秀賞	小説 心が叫びたがってるんだ。	豊田 美加	弘前市立津軽中学校	2	神 瑞喜
優秀賞	目がみえない 耳がきこえない でも ぼくは笑ってる	佐々木志穂美	五戸町立五戸中学校	1	深畑 歩花

	書名	著者名	学校名	学年	氏名
優秀賞	ジャパン・ディグニティ	高森 美由紀	青森市立南中学校	3	佐々木 世奈

〈高校生の部〉

	書名	著者名	高等学校名	学年	氏名
最優秀賞	一握の砂	石川 啄木	県立青森高等学校	2	津川 玲菜
優秀賞	下手くそ	中澤 佑二	県立青森高等学校	2	富岡 拓朗
優秀賞	自分を好きになる本	パット・パルマー	県立八戸商業高等学校	3	松森 聖良
優秀賞	ビブリア古書堂の事件手帖～葉子さんと奇妙な客人たち～	三上 延	千葉学園高等学校	2	古澤 碧
優秀賞	夢をかなえる本	パット・パルマー	県立北斗高等学校	1	佐藤 ほのか
優秀賞	塩狩峠	三浦 綾子	県立弘前中央高等学校	1	藤田 愛里彩

○優秀作品集を 54,000 部作成し、中学校、高等学校、図書館等に配布した。

(3) 子どもの読書活動推進に係る普及・啓発

ア 子どもの読書活動推進大会の開催

子どもの読書習慣の形成と豊かな心の育成を図る機運を高めるため、一般県民、市町村図書館関係職員、教職員を対象に子どもの読書活動推進大会を県内 2 か所で開催した。

	平川大会	十和田大会
開催日時及び場所	7/29(金)平川市生涯学習センター 13:00～16:00	11/2(水)十和田市東公民館 13:00～16:00
参加人数	110名	138名
内 容		
行政説明	青森県子ども読書活動推進計画(第三次)について	
講演	演題 「一人一人が、みんなたいせつ ー作品に託す願いー」 講師 絵本作家 くすのき しげのり	演題 「心を豊かにする 言葉との出会い、 生き方との出会い」 講師 ノンフィクション作家・評論家 柳田 邦男
事例研究	テーマ「学校と地域の連携による子どもの読書活動の推進」 ・コーディネーター 青森県読書団体連絡協議会会長 西村 恵美子 ・事例発表者 十和田市立深持小学校 教諭 成田 忍 五所川原市立図書館 次長 須藤 紀子 ブックショップかえで 店長 福士 裕康	・コーディネーター 青森県学校図書館協議会 顧問 阿部 松雄 ・事例発表者 青森市立浪打中学校 教諭 阿部 裕美子 八戸市立図書館 主事兼司書 田中 理恵子 県立田名部高等学校 教諭 堤 孝
展示コーナー 講演講師、演題に関する参考図書、発表者の事例紹介、地区内の読書団体の活動紹介、地区内の図書館におけるイベント紹介等のコーナーを設置		

イ 第三次計画普及のためのリーフレットの作成

青森県子ども読書活動推進計画(第三次)の内容やそれに基づく県の取組を広く県民に周知するため、リーフレットを 9,000 部作成し、関係機関や図書館、学校等に配布した。

【成果と課題】

あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』では、学校や公立図書館等への取組の周知、優秀作品のホームページへの掲載、優秀作品集の作成・配布等により、中・高校生の読

書意欲の向上を図るきっかけとすることができた。また、子どもの読書活動推進大会では、各地区の学校図書館協議会等と連携して開催したことにより、教職員の参加も増え、より多くの県民と子どもの読書活動推進に関わる取組の情報等を共有することができた。

「青森県子ども読書活動推進計画(第三次)」策定時(平成 27 年 3 月)の目標値については、市町村のブックスタートの実施率及び子ども読書活動推進計画の策定率、公立図書館等における児童書の貸出冊数、学校図書館図書標準の達成率、ボランティアと連携している小学校の割合、学校図書館における図書情報のデータベース化率、市町村における保護者の意識啓発を図る取組の実施率については進展・改善が見られている。一方で、ボランティアと連携している公立図書館の割合、ボランティアと連携している中学校の割合が後退していることから、目標数値の改善に向け取り組んでいく必要がある。

いじめ根絶キャンペーン推進事業

〔事業目的及び概要〕

いじめ防止の等の取組は、学校だけでなく、家庭や地域、関係機関が連携して取り組むことが重要であり、いかなるいじめも許さないという人権尊重の精神を育む体制を整備することが必要である。このため、地域からいじめ防止の意識啓発キャンペーンを幅広く展開し、学校におけるいじめ防止に向けた取組を支える事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) いじめ根絶標語コンクール

小学生、中学生、高校生、一般県民からいじめ根絶を訴える標語を募集し、優秀作品 6 本を選定、表彰した。

○募集期間：6/8(水)～9/15(木)

○応募数：4,890 点(小学校 2,840 点、中学校 1,789 点、高等学校 259 点、一般 2 点)

(2) いじめ根絶標語優秀作品

	標 語	学 校 名	学年・氏名
優 秀 賞	やめようよ 声出すゆう気に 金メダル	青森市立造道小学校	3 年 重留 稔篤
	考えて 相手の気持ち もう一度	中泊町立中里中学校	2 年 宮腰 清花
	守ろうよ みんなの笑顔 いつまでも	弘前市立岩木小学校	4 年 竹内 野々花
	S O S がまんはいらない 君のこえ	六戸町立六戸小学校	3 年 木村 菜希
	無くしたい 思っているだけじゃ 変わらない	県立むつ工業高等学校	1 年 色川 志歩
勇気持ち 「やめて！」が言える 私たち	千葉学園高等学校	3 年 清水 綾香	
特 別 賞	救うのは 君の勇気と 正義感	五所川原市立 五所川原第四中学校	3 年 須郷 愛未
	見ているな みんなでいじめに たちむかえ	弘前市立致遠小学校	5 年 千葉 さくら
	あの子のね かなしいなみだ とめなくちゃ	十和田市立四和小学校	1 年 高谷 玲桜
	いじめだめ それがクラスの 合言葉	六戸町立六戸小学校	4 年 沢口 珠優
手をのばし 守る友に さく笑顔	階上町立石鉢小学校	6 年 吉田 華	

(3) 優秀作品によるいじめ根絶テレビ放映キャンペーン

ア 放送期間及び時間

1/12(木)～2/8(水)までの 1 か月間

平日の朝 6:00～8:00

イ 放送局

青森放送株式会社、株式会社青森テレビ、青森朝日放送株式会社 各社 20 回、合計 60 回

(4) キャンペーンCMを Youtube にて配信

〔成果と課題〕

いじめ根絶標語コンクールでは、標語をつくることを通して、いじめ防止に向けた認識を深めることができた。

また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につなげることができた。

今後は、家庭や地域が連携し、いじめ防止等に取り組む必要があることから、PTA連合会等と連携し、いかなるいじめも許さないという人権教育の精神を育む機会を促進していく必要がある。

障害者青年学級開設

〔事業目的及び概要〕

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容		
青森第二養護学校	5	15	124	運動会参加、ボウリング、スポーツ体験、会報の発行		
青森若葉養護学校	3	11	28	運動会参加、親睦旅行、スポーツ体験、閉級式		
青森第一高等養護学校	4	11	121	運動会参加、ヨガ、スポーツ体験、めいせい祭参加		
青森第二高等養護学校	4	18	286	二高養祭参加、地域ブロック活動(研修会、情報交換会)、同窓生の集い(ボウリング)		
県立盲学校	3	8	51	点字ブロック理解への呼びかけ、球技大会参加、県盲祭参加		
浪岡養護学校	9	14	107	運動会参加、PTA研修、重訪部クラス会、成人を祝う会、浪養祭参加、DVD鑑賞教室、スポーツ体験交流		
弘前第一養護学校	5	20	130	運動会参加、スポーツ体験、総会・親睦会、親睦旅行、学習発表会鑑賞		
弘前第二養護学校	5	16	84	運動会参加、合同ねぶた祭り参加、同窓会参加、ふれあいコンサート、学習発表会参加		
八戸第一養護学校	3	13	155	レクリエーション、成人を祝う会・夏を楽しむ会、高等部祭見学会		
八戸第二養護学校	2	10	285	卒業生の集い、卒業生と在校生の交流会、高校生ボランティアとの交流会		
八戸盲学校	6	18	72	組織作り、スポーツ体験(フロアバレーボール)、芸術教室(合唱)、学習発表会参観・参加		
森田養護学校	3	12	79	スポーツ体験(ダンス)、森養祭への参加、バス遠足(公共機関の利用)		
黒石養護学校	3	13	124	開級式、映画鑑賞、軽スポーツ「フライングディスク」		
七戸養護学校	3	13	139	同窓会総会、成人を祝う会、同窓会バス旅行		
むつ養護学校	4	11	196	運動会参加、スポーツレクリエーション、福祉を向上するための情報等の共有、ふれあいボウリング大会		
合計	のべ回数	62 回	のべ時間	203 時間	参加者数合計	1,981 名

(2) スポーツ体験交流

参加対象：青年学級生と児童生徒や地域住民 等

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/12(火)	弘前第一養護学校	29 名	ボッチャ教室
7/31(日)	青森第二高等養護学校	25 名	ニュースポーツ教室 (カローリングほか)
9/25(日)	黒石養護学校	49 名	フライングディスク教室
9/30(金)	弘前第二養護学校	60 名	ボッチャ教室
10/ 2(日)	八戸盲学校	27 名	フロアバレーボール教室
10/12(水)	青森第一高等養護学校	28 名	ボッチャ教室
11/ 7(月)	浪岡養護学校	26 名	ボッチャ教室
12/ 3(土)	青森若葉養護学校	18 名	ニュースポーツ教室 (バルバレーほか)

実施日	開催場所	参加者数	内容
12/10(土)	青森第二養護学校	53名	ニュースポーツ教室(ミニボーリングほか)
合計	開催回数 9回	参加者数合計	315名

[成果と課題]

青年学級は、卒業生が、懐かしい友人や教師と顔を合わせたりする機会が少なくなることから、この事業を通して近況や状況を知るとてもよい機会となっている。また、自宅と施設の往復が多い中、学校生活を共にした仲間と定期的に集まり、昔話をしたり、現在の様子を話したりすることは、卒業生にとって大切な時間になっている。特別支援学校が卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業はとても重要である。スポーツ体験交流は、体を動かすことが少ない卒業生においては、とてもよい機会となっている。実施校も昨年度より1校増え、参加者数も増加している。

障害者家庭教育学級開設

[事業目的及び概要]

障害のある児童生徒の父母等保護者の家庭教育支援を目的として、特別支援学校に家庭教育を開設する事業である。

[事業内容及び結果]

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
青森第一養護学校	5	12	66	パン作り教室、陶芸教室、保護者施設見学会、進路講話(相談事業所の役割と福祉サービス)
青森第二養護学校	4	12	67	ハンド&ヘッドマッサージ、東青地区合同研修会、そば打ち体験、ヘアカット教室
青森若葉養護学校	3	6	17	陶芸、お菓子作り、コサージュ作り
青森第一高等養護学校	7	19	159	エコラフト教室、運動会参加、トールペイント教室、文化祭参加、藍染教室、救命講習
青森第二高等養護学校	4	8	108	花苗植え、環境整備、窯業作業体験、お菓子作り、二高養祭への参加
県立盲学校	6	16	67	通学路清掃活動、東北地区盲学校文化・体育大会参加、点字ブロック理解啓発活動、県盲祭協力、進路講演会聴講
青森聾学校	6	12	59	運動会グラウンド整備、昼食交流、家族レクリエーション、青聾祭模擬店への協力、胸章作り
浪岡養護学校	6	11	178	弘前地区合同研修会参加、運動会参加、学校祭参加、研修会(AED)、調理活動
弘前第一養護学校	3	11	104	運動会参加、障害者就労施設見学、福祉サービス講演
弘前第二養護学校	6	18	213	運動会参加、弘前地区合同研修会参加、県特P連津軽地区合同研修会参加、弘二養祭鑑賞、施設見学会
弘前聾学校	8	15	167	食育に関する講話、給食試食会、親子レクリエーション、弘前地区合同研修会・三校合同研修会の参加、手話講座、弘聾模擬店体験
八戸第一養護学校	5	17	65	災害危機管理研修会、バス研修会、給食に関する研修会、特P連二北三八地区合同研修会、二北三八地区合同研修会
八戸第二養護学校	3	11	120	性教育講座、社会見学、進路学習会(講演)
八戸盲学校	6	17	81	運動会装飾作り、自然体験活動、奉仕作業(清掃)
八戸聾学校	6	17	88	運動会装飾作り、運動会参加、三校合同研修会の参加、自然体験活動、学校行事装飾・環境美化清掃
森田養護学校	3	11	41	洋菓子作り講習会、工場見学、キャリア教育研修会
黒石養護学校	4	9	35	和菓子作り、弘前地区合同研修会参加、コサージュ作り、黒

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
				養祭「お楽しみコーナー」の運営
七戸養護学校	5	13	100	園芸活動、進路講話、障害者福祉施設見学、調理活動
むつ養護学校	6	17	241	スポーツ・屋外レクリエーション、プランター整備、施設見学、父母学習会、二北三八地区合同研修会参加
合計	のべ回数 96 回		のべ時間 252 時間	参加者数合計 1,976 名

〔成果と課題〕

家庭教育学級を実施することで保護者同士が研修会等をとおして交流を深め、学年や学部、類型を超えての交流の場となっている。また、家庭教育上の課題や必要な知識を習得する機会であり、自己の悩みに対する先輩のアドバイスを受ける好機となっている。課題としては、生徒の居住地が県全体であり、参加する保護者が交通事情などから固定化しているなどの状況がある。今後は、より多くの保護者に参加してもらえるような内容等を検討し工夫していく必要がある。

地域で学校を支える仕組みづくり推進事業

〔事業目的及び概要〕

学校に求められる役割が増大する中で、地域で学校を支える仕組みづくりを推進するため、新たな学校支援活動を展開する市町村への支援を行うほか、学校支援関係者の資質向上と実践事例の普及啓発を図る研修会(フォーラム)を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 地域で学校を支える仕組みづくり推進委員会

行政関係者、学校関係者、社会教育関係者、福祉関係者、学識経験者、事業関係者等で構成し、地域で学校を支援する仕組みづくりを推進するための諸課題や方策等について協議するとともに、フォーラムの内容検討、事業実施後の検証・評価等を行った。

ア 推進委員会の開催

(ア) 第1回推進委員会

9/20(火) 10:00～12:00 ラ・プラス青い森 参加者数 24 名

(イ) 第2回推進委員会

2/16(木) 13:30～15:30 ウェディングプラザ アラスカ 参加者 23 名

イ 平成 28 年度地域で学校を支える仕組みづくり推進委員会委員名簿

No	氏 名	所 属 等	備考
1	松本 大	弘前大学教育学部 講師	会長
2	齋藤 厚	弘前大学教育学部 教職キャリア支援コーディネーター	副会長
3	工藤 信敬	弘前市立文京小学校 校長	
4	諏訪 俊幸	十和田市立大深内中学校 校長	
5	外崎 浩司	青森県PTA連合会 会長	
6	工藤 清子	今別町地域教育協議会 コーディネーター	
7	北畠 千春	板柳町学校支援ボランティア コーディネーター	
8	澤谷 幸子	横浜町読み聞かせボランティア 代表	
9	竹園 正敏	青森県教育支援プラットフォーム下北地区実行委員会 実行委員長	
10	上野 志津子	鱒ヶ沢町子育てサポートセンター 家庭教育インストラクター	
11	三上 裕久	五所川原市教育委員会社会教育課 係長	
12	福田 藍	五戸町教育委員会教育課 主査	

(2) フォーラムの開催

事業関係者の資質向上と、市町村の実践事例等の普及啓発を図るためにフォーラムを開催した。

ア 開催時期 11/22(火)13:30～16:00

イ 会 場 県総合社会教育センター 大研修室

ウ 対 象 学校支援センター関係者、市町村教育委員会関係者、教職員 など
 エ 参 加 者 100名
 オ 内 容 講演
 学校は人がつながる連携の拠点
 ～地域で学校を支えるための方法をデザインする～
 講師 一般社団法人教育デザイン研究所 代表理事 吉田 和夫

パネルディスカッション
 テーマ「地域学校協働の仕組みづくりと活動の活性化に向けて」
 コーディネーター
 一般社団法人教育デザイン研究所 代表理事 吉田 和夫
 パネリスト（事例発表）
 ・今別町地域教育協議会 大馬 義明 工藤 清子
 「土曜日の教育活動を豊かなものにするための仕組みづくり」
 ・栄小学校学校支援ボランティア推進協議会
 三上 裕久 葛西 彩子
 「学校支援活動による学校図書館の充実に向けた仕組みづくり」
 ・十和田市立大深内中学校 校長 諏訪 俊幸
 「コミュニティ・スクールの実践」

(3) 地域で学校を支える仕組みづくり推進事業費補助
 地域で学校を支える仕組みづくり推進事業を実施する市町村(中核市の青森市を除く)に補助金を交付した。

実施市町村：5市町(学校支援活動数 22活動)
 今別町 五所川原市 板柳町 平川市 五戸町

【成果と課題】

学校を支えるボランティア活動によって、学校と地域との連携が深まり、学校教育活動の充実につながっている。

フォーラムの事例発表では、県内の3事例を、講演では全国的な話題や取組の事例をそれぞれ紹介した。その結果、ほとんどの参加者が「満足のいく研修である」との評価であった。参加者は、コーディネーターの重要性や連携・協働の具体的な進め方を学ぶことができたようである。今後は、法改正に伴う国の施策・方向性に合わせ、「地域学校協働活動」の推進に向けた県の新たな施策について検討していく必要がある。

農山漁村でとことん「学び・交流・体験」事業

【事業目的及び概要】

農山漁村における地域コミュニティの活性化や郷土に対する子どもたちの理解を深めるため、土曜日等(日曜日、祝日、長期休業日を含む。以下、「土曜日等」という。)の学習活動への学生サポーター派遣を行うほか、県内の子どもたちが農山漁村に宿泊し、豊かな地域資源を活用した交流体験活動等を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 農山漁村における学生サポーターによる土曜学習活性化事業

農山漁村に対し、土曜日等に学生サポーターを派遣し、学習活動等を行うことによって、地域コミュニティの活性化を図る。

ア 対象市町村

- ・放課後子ども教室推進事業に取り組み、土曜日等に派遣を希望する市町村
- ・土曜学習推進事業に取り組み、土曜日等に派遣を希望する市町村
- ・土曜日等に学生サポーターの派遣を希望し、学習支援の実施を希望する市町村

イ 派遣期間 平成28年9月～平成29年2月

ウ 派遣状況等 8市町村 13箇所 29回派遣

エ 活動内容 学習支援、スポーツ活動支援、体験活動支援

オ 学生サポーター

(ア)人数 [登録] 54名 [派遣] 延べ72名(実数50名)

(イ)所属大学 青森明の星短期大学(10名) 東北女子大学(11名) 八戸学院大学(12名)

青森中央学院大学(7名) 青森中央短期大学(3名) 弘前大学(11名)

	月日	市町村	派遣先	活動内容	派遣人数	参加児童
1	9/10(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	2名	12名
2	9/17(土)	七戸町	七戸町放課後子ども教室	ものづくり体験支援(モーターを使ったおもちゃづくり)	2名	15名
3	9/17(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	1名	3名
4	9/17(土)	中泊町	薄市小学校放課後子ども教室	スポーツ活動支援(体を動かそう!リズム運動)	3名	14名
5	9/24(土)	平川市	わくわくひらかわ教室	体験活動支援(遊びリンピック)	3名	26名
6	10/8(土)	おいらせ町	甲洋なかよし教室	工作教室支援、日本舞踊教室支援	1名	18名
7	10/22(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動	2名	27名
8	10/22(土)	おいらせ町	甲洋なかよし教室	工作体験コーナー運営支援、日本舞踊舞台発表支援	3名	12名
9	10/23(日)	おいらせ町	甲洋なかよし教室	工作体験コーナー運営支援	3名	20名
10	10/29(土)	新郷村	どよう塾	ものづくり体験支援(ジャック・オー・ランタンづくり)	1名	8名
11	11/12(土)	七戸町	七戸町放課後子ども教室	ものづくり体験支援(モーターを使ったおもちゃづくり)	2名	22名
12	11/19(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	4名	9名
13	11/19(土)	中泊町	武田小学校放課後子ども教室	体を動かす活動支援(Let'sダンス)	3名	11名
14	11/19(土)	中泊町	中里小学校放課後子ども教室	料理教室支援(カレーライスを作ろう)	2名	54名
15	11/26(土)	佐井村	佐井村放課後子ども教室	スポーツ活動支援(レクリエーションスポーツ)	3名	12名
16	12/10(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	4名	11名
17	12/10(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	2名	7名
18	12/17(土)	佐井村	佐井村放課後子ども教室	ものづくり体験支援(クリスマスおやつづくり)	2名	9名
19	12/17(土)	新郷村	どよう塾	ものづくり体験支援(ケーキ作り体験)	2名	24名
20	12/17(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	2名	12名
21	12/24(土)	平川市	わくわくひらかわ教室	ものづくり体験支援(オリジナル年賀状作り)	3名	19名
22	12/26(月)	深浦町	深浦町放課後子ども教室(3教室合同)	スポーツ活動支援(ミニ運動会・スポーツ教室)	3名	42名
23	1/6(金)	深浦町	レッツ!ふかうら中央教室	冬休みの宿題等の学習支援・スポーツ活動支援	3名	14名
24	1/6(金)	深浦町	レッツ!ふかうら南教室	冬休みの宿題等の学習支援・スポーツ活動支援	2名	18名
25	1/21(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	3名	5名

	月日	市町村	派遣先	活動内容	派遣人数	参加児童
26	1/28(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び・体験活動支援	1名	10名
27	1/28(土)	平川市	わくわくひらかわ教室	体験活動支援(わくわくレクリエーション)	3名	18名
28	1/28(土)	佐井村	佐井村放課後子ども教室	ものづくり体験支援(工作教室)	3名	8名
29	2/25(土)	平川市	わくわくひらかわ教室	ものづくり体験支援(思い出アルバムづくり)	4名	20名
計					72名	480名

(2) 農山漁村体験留学支援事業

郷土あおもりに関する理解を深めるため、県内の小・中学生が夏季休業中に農山漁村に宿泊し、豊かな地域資源を活用した体験交流活動を実施した。

受入市町村	月日	内容	参加者
佐井村(がんかけ公園ケビンハウス)	7/28(木)～29(金)	がんかけ公園磯遊び、いさり火見学、青森ヒバの箸づくり、花火大会、炊事	中南地区の小中学生 23名
風間浦村(下風呂公民館)	8/5(金)～6(土)	烏賊様レース、下風呂温泉、ふのり記念公園磯遊び、花火大会、炊事	三八地区の小学生と大人 9名
今別町(海峡の家ほろづき)	7/25(月)～26(火)	*募集定員に達しなかったため中止	

[成果と課題]

農山漁村における学生サポーターによる土曜学習活性化事業については、子どもたちにとって、歳の近いサポーターと一緒に活動できることだけでも楽しく感じており、生き生きとした活動や根気強い学習につながっていると同時に、手本となる大人にもなっている。また、派遣先の市町村やスタッフにとっては、学生サポーターの子どもとの接し方が参考となり、学生の前で見せる子どもの違う一面が見られるなど、よい刺激となり、地域コミュニティの活性化につながっている。

農山漁村体験留学支援事業では、いさり火見学や磯遊びなどの地域資源を活用した活動内容を実施した。事業後の聞き取り等では、ほとんどの参加者から満足度の高い評価が得られた。今後は参加者数の増加を図るため、応募方法や活動内容の見直しなどの検討を行う必要がある。

あおもりの未来を変える0歳からの家庭教育応援事業

[事業目的及び概要]

乳幼児期からの家庭教育を推進するため、「乳幼児期からの家庭教育の在り方」について調査研究を行い、市町村の子育て支援策や母子健康手帳への取り込みを図るとともに、普及啓発のための番組をテレビで放映するほか、普及啓発にかかるフォーラムの開催や家庭教育をサポートする祖父母世代を対象とした研修会を行う。

[事業内容及び結果]

(1) 青森県における「乳幼児期からの家庭教育支援」普及定着事業

ア 青森県乳幼児期からの家庭教育支援調査研究

青森県乳幼児期からの家庭教育支援調査研究委員会を設置し、主に0～3歳の子どもを持つ保護者を対象とした調査研究を行い、乳幼児期からの生活習慣について正しい知識や情報を提供するウェブサイト「教えて!!乳幼児からの生活習慣」を制作した。また、保護者への普及活動を行うに当たり、スマホ等から手軽にアクセスできるようにするため、市町村が配布する母子健康手帳に貼付することができるQRコード付きステッカーシールを作成した。

(ア) 平成28年度青森県乳幼児期からの家庭教育支援調査研究委員名簿

No.	氏名	所属等	備考
1	中村 由美子	文京学院大学 教授	委員長
2	平 紅	下北地域県民局 地域健康福祉部 保健総室長	

3	嶋谷嘉英	青森県健康福祉部 がん・生活習慣病対策課長	
4	千葉文明	青森県健康福祉部 こどもみらい課長	
5	五十嵐茂幸	黒石市健康福祉部長	
6	神龍子	七戸町教育委員会教育長	
7	椛沢幸苗	中居林こども園理事長	
8	沼田久美	NPO法人子育て応援隊 ココネット・あおもり代表	

(イ)開催回数：4回(7/8(金)、9/23(金)、9/28(水)、2/24(金))

イ 家庭教育支援テレビ番組の放映(主管：県総合社会教育センター)

今まで届かなかった家庭へのアプローチと、社会全体で家庭を支える機運を醸成するため、家庭教育支援コンテンツ事業と連動して番組を制作し、テレビで放映した。

○放映回数：8回

○放映日：本放送日 10/2、11/6、12/4、1/22

再放送日 10/30、11/27、12/25、1/29

○放映時間：日曜日 17:00～17:15(RAB青森放送にて放映)

(2) 0歳からの家庭教育応援フォーラムの開催

本県における短命や肥満などの健康課題を踏まえ、乳幼児期からの家庭教育の重要性や基本的な生活習慣等に関する普及啓発を図るとともに、高校生・大学生等、未来の親世代の子育てへの関心を高めることをねらいとしたフォーラムを開催した。

○開催日 11/24(木)

○会場 リンクモア平安閣市民ホール

○参加者数 172名

○内容 第1部 ヤングパパママと未来のパパママ交流会

ヤングパパママ

弘前大学学生・教員研究会らぶちる

青森中央高校読み聞かせ隊

第2部 トークセッション

ゲスト くわばたりえ

第3部 シンポジウム

文京学院大学 教授 中村 由美子

下北地域県民局地域健康福祉部保健総室長 平 紅

NPO法人子育て応援隊 ココネットあおもり 代表 沼田 久美

ヤングパパママ代表 藤林 秀

未来のパパママ代表 中田 新子

パネル展示

- ・青森中央高校読み聞かせ隊
- ・弘前大学学生・教員研究会らぶちる- Love for Children -
- ・NPO法人弘前こどもコミュニティ・ぴーぷる
- ・NPO法人子育てオーダーメイド・サポートこもも
- ・NPO法人はちのへ未来ネット
- ・NPO法人子育て応援隊 ココネットあおもり
- ・NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ
- ・むつ市ファミリー・サポート・センター
- ・baby☆mama tette
- ・mama sun Angels
- ・チーム 紬 ～つむぎ～
- ・青森市家庭教育サポーター連絡会
- ・鱒ヶ沢町子育てサポートセンター
- ・今別町家庭教育支援チーム
- ・おいらせ町家庭教育支援チーム しるくはあと
- ・青森県こどもみらい課
- ・青森県乳幼児期からの家庭教育支援調査研究委員会

- (3) イクジイ、イクバアのためのイマドキの子ども研修会の開催(青森県地域婦人団体連合会へ委託)
乳幼児期からの生活習慣を確立するとともに、肥満傾向児等の出現率を抑えることを目的として、家庭教育をサポートする祖父母世代を対象とし、乳幼児期からの子どもの発達段階に応じた家庭教育の重要性や生活習慣に関する研修会を開催した。

開催地	実施日	会場	参加者数	内容
蓬田村	9/21(水)	蓬田村ふるさと総合センター	130名	【講義】 「子ども達の健康を守る ～イクジイ、イクバアの出番です～」 講師 青森中央学院大学 准教授 高橋 佳子
弘前市	12/5(月)	長慶閣	162名	
むつ市	2/17(金)	むつ市中央公民館	82名	
合計参加者数			374名	

【成果と課題】

ウェブサイト「教えて！！乳幼児期からの生活習慣」については、アンケート等をもとに、より使いやすいものにしていくことが必要である。平成29年度は、ウェブサイトの周知とQRコード付きステッカーシールの市町村への配布を行っていく。テレビ番組の放映と併せて、今まで届かなかった家庭へのアプローチと社会全体で家庭を支える機運の醸成を図っていく。

0歳からの家庭教育応援フォーラムでは、特に第2部のくわばたりえ氏のトークセッションの内容が参加者にとって共感できるものだったので、高評価であった。

イクジイ・イクバアのイマドキの子ども研修会では、高橋先生の講演を通して今と昔の子育ての違いについて学ぶことができ参考になったという意見が多かった。

放課後子ども教室推進事業

【事業目的及び概要】

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、スポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民と交流活動等の取組を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 放課後子ども総合プラン推進委員会

行政関係者、学校関係者、社会教育関係者、福祉関係者、学識経験者、事業関係者等で構成し、全児童の放課後対策の諸課題について協議するとともに、放課後対策事業の実施方針、安全管理方策、広報活動方策の策定や、指導者研修の内容検討、事業実施後の検証・評価等を行った。

ア 平成28年度青森県放課後子ども総合プラン推進委員会委員名簿

No.	氏名	所属等	備考
1	戸塚 学	弘前大学教育学部 学部長	会長
2	齋藤 厚	弘前大学教育学部 教職キャリア支援コーディネーター	副会長
3	伊藤 郁子	今別町立今別小学校 校長	
4	横田 涉子	青森県PTA連合会 代議員	
5	宮里 幸子	七戸町教育委員会 放課後子ども教室コーディネーター	
6	柿崎 哲男	青森県児童館連絡協議会 会長	
7	山田 由紀子	こみなと放課後児童クラブ 主任指導員	
8	貝吹 彰穂	館なかよしクラブ 代表者	
9	地代所 誠	階上町教育委員会教育課 課長	
10	新保 詠美子	むつ市教育委員会生涯学習課 主事	
11	竹内 拓人	五所川原市福祉部家庭福祉課 課長	
12	町田 徳子	青森県発達障害者支援センター 所長	

イ 回数：2回

(2) 指導者研修

放課後子ども教室関係者と児童クラブ関係者等を対象とした指導員研修を実施した。

ア 放課後子ども総合プランコーディネーター等研修

○主管：県総合社会教育センター

○参加人数：計 289 名

○内容等

開催日：5/18(水)、5/19(木)

会 場：県総合社会教育センター、七戸町中央公民館

内 容：講義・演習 「保護者との信頼関係を築く方法について」

講師 明治大学文学部 教授 諸富 祥彦

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修

○主管：各教育事務所

○参加人数：計 1,280 名

東青	前期	【開催日】 6/21(火)【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 164 名 【内容】 講演・分科会 「子ども理解を深めるために」 スクールカウンセラー 長尾 慶子
	後期	【開催日】 9/14(水)【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 121 名 【内容】 講義・実習 「身近な物を使って楽しく遊ぼう」 NPO法人弘前レクリエーション協会 理事長 小関 潤子
西北	前期	【開催日】 6/9(木)【会場】 つがる市柏ふるさと交流センター 【参加人数】 124 名 【内容】 講義・演習 「子どもや保護者とのより良い関係を築くためのコミュニケーションのあり方」 弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子
	後期	【開催日】 10/5(水)【会場】 つがる市柏ふるさと交流センター 【参加人数】 103 名 【内容】 実習「子どもに起こりやすい怪我や事故への手当と予防」 日本赤十字社 青森県支部 組織振興課 主事 大石 敦史 主事 堀越 真寿実 情報交換「子ども教室等での安全管理について」
中南	前期	【開催日】 7/4(金)【会場】 弘前市立中央公民館長慶閣 【参加人数】 102 名 【内容】 講義「特別な支援が必要な子どもの理解と対応」 弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子
	後期	【開催日】 9/14(水)【会場】 弘前市立中央公民館長慶閣 【参加人数】 79 名 【内容】 講義・演習 「すぐに活用できるレクリエーション」～楽しく学んで、しっかり実践～ 青森県レクリエーション協会 副会長 高橋 昌樹
上北	前期	【開催日】 6/15(水)【会場】 公立小川原湖青年の家 【参加人数】 111 名 【内容】 講義・実技「ものづくり」～簡単にできる 遊べる 工作 II～ 青森県立三沢航空科学館 地域連携グループマネージャー 名久井 正廣
	後期	【開催日】 9/28(水)【会場】 公立小川原湖青年の家【参加人数】 128 名 【内容】 講義・グループ協議 「特別な支援を必要とする子の理解と対応」 青森県発達障害者支援センター「ステップ」 所長 町田 徳子
下北	前期	【開催日】 6/14(火)【会場】 むつ市中央公民館 【参加人数】 77 名 【内容】 講義 「特別な支援の必要な子どもを持つ親への対応」 NPO法人夢 発達障害サポートセンターY o u M e 理事長代行 前田 淳裕
	後期	【開催日】 10/19(水)【会場】 むつ来さまい館 【参加人数】 60 名 【内容】 実技「ワクワドキドキ科学実験工房」～みんなで楽しく科学で遊ぼう②～ 青森県立三沢航空科学館 インストラクター 盛田 洋介 インストラクター 浅沼 直樹

三八	前期	【開催日】 5/17(火) 【会場】 八戸市福祉公民館 【参加人数】 131名 【内容】 講義 「特別な支援の必要な子どもへの関わり方」～あなたはどうか対応する～ NPO法人夢 発達障害サポートセンターY o u M e 理事長代行 前田 淳裕
	後期	【開催日】 10/4(火) 【会場】 八戸市福祉公民館 【参加人数】 80名 【内容】 講義・実技 「ものづくり」～簡単にできる 遊べる 工作～ 青森県立三沢航空科学館 地域連携グループマネージャー 名久井 正廣

(3) 放課後子ども教室推進事業費補助

放課後子ども教室推進事業を実施する市町村(中核市の青森市を除く)に補助金を交付した。

○実施市町村：24市町村(87か所)

平内町 外ヶ浜町 今別町 深浦町 中泊町 鶴田町 弘前市 平川市 藤崎町 大鰐町
十和田市 七戸町 おいらせ町 六戸町 横浜町 東北町 むつ市 大間町 風間浦村
佐井村 八戸市 三戸町 五戸町 階上町

【成果と課題】

放課後子ども教室は、青森市を含めると25市町村で132教室が開設され、地域の特性を生かしてスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流活動等が実施されている。放課後子ども総合プランにかかわる研修会には年間1,500名を越える参加があり、指導員等の資質の向上に資する研修となっている。また、市町村からは、研修の継続を期待されている。

放課後子ども総合プランの推進に向け、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村において円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業

【事業目的及び概要】

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちにとってより有意義な土曜日の実現をめざすため、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する取組を支援し、教育新体制等の構築を図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業費補助

土曜学習推進事業を実施する市町村(中核市の青森市を除く)に補助金を交付した。

○実施市町村：4市町(土曜学習実施箇所数8か所)

今別町 中泊町 弘前市 おいらせ町

【成果と課題】

土曜学習は、県内4市町8か所で実施されている。伝統芸能、様々なスポーツを体験させる活動、自然体験学習等、地域の多様な人材を活用した体系的な学習機会が展開されている。

今後は、取組事例を紹介する等、市町村の放課後子ども教室を含めた土曜日等の教育活動が充実するよう、普及啓発を図っていく必要がある。

家庭教育支援推進事業

【事業目的及び概要】

家庭教育はすべての教育の原点であり、家庭を取り巻く環境が変化している中、社会全体で家庭教育を支援することを目的として、今日的な課題に対応する学習プログラムの作成や当該プログラムの進行役(あおもり家庭教育アドバイザー)の養成・派遣等を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) あおもり家庭教育アドバイザーの養成・派遣

今日的課題に対応した家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」を養成し、PTA等の要請に応じて派遣した。

ア あおもり家庭教育アドバイザー養成講座(主管：県総合社会教育センター)

あおもり親楽プログラムを効果的に活用して、講座や集会等で学習を進行する「あおもり家庭教育アドバイザー」を養成した。受講生22名のうち、15名が新規にあおもり家庭教育アドバイザーとして登録した。

実施日	会場	内 容
5/30(月)	八戸市福祉公民館	【講義】家庭教育の現状とあおり家庭教育アドバイザーの役割 講師 文京学院大学 教授 中村 由美子 【演習】あおり親楽プログラムを体験してみよう
6/ 8(水)	八戸市福祉公民館	【講義】参加者の立場で活動するためには 講師 文京学院大学 教授 中村 由美子 【演習】あおり親楽プログラムを作成してみよう

イ あおり家庭教育アドバイザー派遣

地域における家庭教育支援の活性化を図るため、あおり家庭教育アドバイザーをPTA等の要請に応じて派遣した。

	実施日	実施機関	派遣人数	研修会名称	参加者数	学習プログラム
1	5/16(月)	下北地区社会教育委員連絡協議会	3	下北地区社会教育委員連絡協議会研修会	20	3 支援者編 I-2 聴くことの大切さ ～相手の心に寄り添って～
2	6/13(月)	コープあおり五所川原地域子育て委員会	2	親楽プログラム講座	15	1 乳幼児・小学生編 I-2 笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～
3	6/27(月)	生活協同組合コープあおり	2	子育て応援活動交流会	16	1 乳幼児・小学生編 II-4 わたしの話、聞いている？ ～親子の会話～
4	6/4(土)	おいらせ町教育委員会	1	おいらせの学びカレッジ特別講座 子育て“親楽”ルーム	9	1 乳幼児・小学生編 I-1 ダメったらだめ！～子どもの自我の芽生え～
5	7/2(土)	おいらせ町教育委員会	1	おいらせの学びカレッジ特別講座 子育て“親楽”ルーム	3	1 乳幼児・小学生編 I-1 ダメったらだめ！～子どもの自我の芽生え～
6	7/14(木)	むつ市ファミリーサポートセンター	1	むつ市ファミリーサポートセンターまかせて・両方会員研修会	10	3 支援者編 I-2 聴くことの大切さ～相手の心に寄り添って～
7	8/27(土)	おいらせ町教育委員会	1	おいらせの学びカレッジ特別講座 子育て“親楽”ルーム	8	1 乳幼児・小学生編 I-1 ダメったらだめ！～子どもの自我の芽生え～
8	9/16(金)	弘前市立文京小学校	2	平成28年度 第1回 ぶんきょう親楽のつどい	6	1 乳幼児・小学生編 II-3 『おはよう、いい朝』 ～家庭でのあいさつ～
9	10/27(木)	弘前市立文京小学校	2	平成28年度 第2回 ぶんきょう親楽のつどい	10	1 乳幼児・小学生編 I-3 『子ども同士のトラブル、SOS』～ルールを教える～
10	12/7(水)	弘前市立文京小学校	2	平成28年度 第3回 ぶんきょう親楽のつどい	9	1 乳幼児・小学生編 I-4 『ケンタ君のあくび』 ～子どもの生活リズム～
11	10/4(火)	認定子ども園あゆみ保育園	1	おいらせ町地域子育て支援センター事業「ファミリーサロン」	9	1 乳幼児・小学生編 I-2 笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～

	実施日	実施機関	派遣人数	研修会名称	参加者数	学習プログラム
12	11/11(金)	外ヶ浜町教育委員会	1	就学児健診を活用した子育て講座	13	1 乳幼児・小学生編 I-3 『子ども同士のトラブル、SOS』～ルールを教える～
13	11/18(金)	外ヶ浜町教育委員会	1	就学児健診を活用した子育て講座	6	1 乳幼児・小学生編 I-2 笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～
14	11/12(土)	幼保連携型認定こども園鱒ヶ沢こども園	4	保育参観日	57	1 乳幼児・小学生編 I-2 笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～
15	1/20(金)	むつ市少年指導員協議会	5	平成28年度合同研修会	66	3 支援者編 II-1 子育ての主役は誰？～祖父母・家族の役割を考える～
○あおもり家庭教育アドバイザー派遣合計回数： 15回 ○あおもり家庭教育アドバイザー派遣合計人数： 29名 ○あおもり家庭教育アドバイザー派遣合計参加者数：257名						

(2) 研修会の開催

ア 家庭教育支援スキルアップ研修会(主管：県総合社会教育センター)

あおもり家庭教育アドバイザーや家庭教育支援に関わる人たちが、家庭教育の今日的な課題に対する認識を深め、情報を共有することにより、家庭教育支援者としての更なる資質向上とネットワークの構築を図るため、研修会を開催した。

地区	実施日	会場	参加者数	内 容
東青	6/23(木)	県総合社会教育センター	23名	【講義・演習】「相手の心を理解すること」 ～安心して話してもらえる雰囲気づくり～ 講師 弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子
下北	7/ 8(金)	まさかりプラザ	12名	【青森県の家庭教育支援の状況】 【事例紹介】「先輩アドバイザーから学ぶ」 事例発表者 前弘前市立文京小学校PTA会長 工藤 貴子(東青・下北)
西北	7/14(木)	つがる市生涯学習交流センター	35名	今別町教育委員会家庭教育サポーター 工藤 清子(西北)
合計参加者数				70名
				【演習】スキルアップ！あおもり親楽プログラム

イ 家庭教育支援普及定着研修会(主管：県総合社会教育センター)

家庭教育支援活動に関わる人々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援者等のネットワークの構築・強化を図りながら、情報共有を図るため、研修会を開催した。

(絆でつながる家庭教育支援セミナー共通スキルアップ講座と同時開催・内容はP84に掲載。)

(3) 家庭教育学習テキストの作成

家庭教育の学習を推進するため、あおもり家庭教育アドバイザーが活用する家庭教育の学習テキストを作成する。今年度は「あおもりの未来を変える0歳からの家庭教育応援事業」における調査研究委員会の検討内容と関連した内容とした。

○開催回数：2回(12/27(火)、1/27(金))

○構成：大学教授、家庭教育支援者など5名

No.	氏名	所属等	備考
1	工藤 貴子	あおもり家庭教育アドバイザー	
2	川井 陽子	スポーツ健康課 指導主事	
3	馬場 幸治	三戸町教育委員会事務局 班長	
4	橋本 歩	NPO法人子育てオーダーメイド・サポートこもも 代表	
5	中村由美子	文京学院大学 教授	委員長

〔成果と課題〕

アドバイザー養成講座、スキルアップ研修会、普及定着研修会については、スケジュール通り実施することができた。ただ、派遣事業については小学校の学年全体のPTA対象で実施する等、大人数を相手に行う講座がなかったため、昨年度よりも回数や参加者が少ない状況であった。

来年度、普及定着研修会は教員の参加を見込める長期休みの時期に開催すること、また、あおもり親楽プログラムは、今年度と同様に、重点事業との関連性をもった形のテキストにする必要がある。

若者の社会参加促進事業

〔事業目的及び概要〕

若者の社会参加を促進することを目的に、社会とのつながりへのきっかけを求めている若者の自立支援に向けたキャンプを実施するとともに、社会教育施設を拠点に若者と地域、若者同士の出会いやつながりを形成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) チャレンジキャンプ

社会とのつながりへのきっかけを求めている若者(16歳～概ね35歳)を対象に、少年自然の家等を活用して、自立支援に向けたキャンプを実施した。

活動名	月日	会場	内容	参加者
事前説明会	8/7 (日)	県立図書館	事業説明、臨床心理士との面談、アンケート記入	2名(保護者1名)
チャレンジキャンプ	8/28 (日)	梵珠少年自然の家	アイスブレイク・野外炊事など ※29日はキャンセルにより実施なし、30日～は台風10号により中止	2名(保護者1名)
みんなでチャレンジキャンプ	10/29 (土)	梵珠少年自然の家	アドベンチャービンゴ、野外炊事など	2名 (支援団体職員2名)

(2) 若者の拠点づくり支援

公民館等の社会教育施設を会場に、若者(20～30代)を対象とした事業の企画を支援するとともに、企画に係る謝金と旅費を負担した。

市町村	月日	会場	内容	講師	参加者
平川市	7/31 (日)	平川市文化センター	「ゆかたで夏祭りを楽しもう!!～粋に着こなすゆかた教室～」 ※ゆかたの着付けの講義と、参拝作法の講義(実技)	小山内昌子 (小山内きもの着付愛好会)	11名
六ヶ所村	2/8 (水)	六ヶ所村立中央公民館	「親子ふれあい教室リトミック教室」 ※リトミックを通じた子どもたちの感受性向上を図る	宮川多加子 (音楽広場虹音代表)	13名
青森市	2/11 (土)	青森市役所柳川庁舎	「青森市青年チャレンジ講座」 ※若者のコミュニケーション能力に資する講演	しばたけんじ (個性心理学認定講師)	10名
七戸町	2/12 (日)	七戸南公民館	「コーヒースクール」 ※コーヒー講座を通じ、若者支援団体のネットワーク形成を図る	飯田雄治 (HappyTree代表)	10名

市町村	月日	会場	内 容	講師	参加者
中泊町	2/12 (日)	中泊町中央公民館	「いいなかどまり会・活ハマクラブ 研修会」 ※講師の実践を聴き、自分たちでできるまちおこしについて協議	坂本崇(弘前 観光コンベンション 協会 事務局長)	13名
三沢市	2/19 (日)	三沢市公会堂	「親子力UP講座」 ※地元食材を使っの料理体験を通じて親子力UPと参加者同士のコミュニケーションを図る	伏見憲子(N PO日本食育 インストラクター)	15名
十和田市	2/25 (土)	十和田市東公民館	「TMG48 スキルアップ研修」 ※講師の実践を聴き、おもてなしのスキルアップを図る	町田直子(N PO法ACTY代 表)	31名
鱒ヶ沢町	3/7 (火)	鱒ヶ沢町中村公民館	「親子ヨガ」 ※ヨガを通して親子のスキンシップ向上を図る	田中敦子(ヨ ガインストラ クター)	7名
五所川原市	3/19 (日)	五所川原市中央公民館	「子育てのための個性心理学」 ※親子で行うメンタルトレーニングを通して若者団体の活性化を図る	佐藤正則(青 森ヘルシー産 業代表)	9名

【成果と課題】

チャレンジキャンプでは、アイスブレイクや野外炊事、自然体験活動などを通じて、人間関係力やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。一方で、参加人数や広報の方法、協力団体との連携の方法など、参加者の視点に立った計画の見直し・検討の必要がある。

若者の拠点づくり支援については、若者団体の拡大・活性化、コミュニケーション力の向上などを目的とした講演・講座が実施され、各市町村で若者と地域、または若者同士のつながりを形成することができた。今後は、実施市町村数増加に向け、実施例の周知や講師の紹介など、市町村担当者へ働きかけていく必要がある。

総合社会教育センター

高大連携キャリアサポート推進事業

【事業目的及び概要】

高校生の「やる気」や意欲を引き出し、自らの夢に向かって主体的に行動できる人財を育成するために、大学生によるワークショップを実施するとともに、コミュニケーション、ファシリテーション等の研修を行い、大学生のスキルアップを図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) ワークショップ「キャリアサポ」の実施

- ア 実施高等学校数 24校
- イ 参加高校生数 3,647名
- ウ 延べ参加大学生数 1,198名

No.	月日	実施校	対象高校生	参加大学生
1	6/11(土)	青森北高校	1学年(6クラス240名)	85名
2	6/18(土)	八戸西高校	1学年(6クラス201名)	68名
3	6/25(土)	青森東高校	2学年(7クラス278名)	78名
4	7/ 9(土)	黒石商業高校	1学年(4クラス149名)	73名
5	8/23(火)	田子高校	1・2学年(2クラス49名)	32名
6	8/25(木)	青森西高校	1学年(6クラス240名)	62名
7	8/26(金)	三本木高校	1学年(6クラス239名)	57名
8	8/29(月)	三戸高校	2学年(2クラス67名)	28名
9	9/ 1(木)	青森商業高校	2学年(6クラス238名)	57名

No.	月日	実施校	対象高校生	参加大学生
10	9/ 3(土)	金木高校	1 学年(2 クラス 36 名)	24 名
11	9/ 5(月)	三沢商業高校	2 学年(4 クラス 157 名)	49 名
12	9/ 7(水)	五所川原農林高校	2 学年(5 クラス 171 名)	49 名
13	9/ 8(木)	弘前中央高校	1 学年(6 クラス 240 名)	66 名
14	9/12(月)	大湊高校川内校舎	1・2 学年(2 クラス 53 名)	31 名
15	9/13(火)	大間高校	1 学年(2 クラス 70 名)	31 名
16	9/14(水)	田名部高校	1 学年(5 クラス 190 名)	45 名
17	11/ 5(土)	七戸高校	1 学年(4 クラス 146 名)	46 名
18	11/12(土)	八戸工業大学第二高校	1 学年(7 クラス 227 名)	75 名
19	11/19(土)	浪岡高校	1 学年(2 クラス 64 名)	37 名
20	11/26(土)	青森明の星高校	1 学年(6 クラス 225 名)	59 名
21	12/10(土)	東奥義塾高校	1 学年(2 クラス 63 名)	29 名
22	12/17(土)	青森山田高校	1・2 学年(2 クラス 39 名)	30 名
23	3/ 2(木)	五戸高校	1 学年(2 クラス 65 名)	35 名
24	3/ 3(金)	青森中央高校	1 学年(5 クラス 200 名)	52 名

(2) キャリア形成の支援

ア 大学生会議(5/8(日)、7/17(日)、3/17(金))

イ 実施校担当者等研修会：11/17(金)

参加数 20 校 21 名

講 話 「スキルアッププログラム・キャリアサポ創設経緯と今後の発展について」

事例発表

県総合社会教育センター	所長	坂本	徹
県立弘前中央高等学校	教諭	野呂	直宏
県立五所川原農林高等学校	教諭	平川	未奈
県立田子高等学校	教諭	亀橋	裕隆

ウ 大学生対象研修会の開催

○基本研修(計 7 回) 受講者数 149 名

○応用研修(計 3 回) 受講者数 26 名

[成果と課題]

昨年同様 24 校でワークショップを実施したことで、高校生の意欲を引き出すワークショップ「キャリアサポ」を計画的、組織的かつ持続的に開催するための仕組みを構築することができた。

今後は、さらにキャリア形成の支援を推進するために、高校の実態や要望に合わせて効果が発揮されるよう手法の見直しや、参加大学生の安定的確保と定着に向けて説明会や研修の強化を図っていく必要がある。

高校生スキルアッププログラム推進事業

[事業の目的及び概要]

高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し逞しく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とし、学校外における学習への積極的な取組を推進する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 高校生スキルアッププログラムの運営

(2) 担当教員研修の実施

「キャリア教育研修会」の開催(高大連携キャリアサポート推進事業と共催)

○開催日：11/17(木)

○会 場：県総合社会教育センター

○対 象：高校生スキルアッププログラム担当教員

○参加者：20 校 21 名

○内 容：事例発表：「高校生スキルアッププログラム活動状況」について

県立青森西高等学校 教諭 小田桐 満子

事業説明：県総合社会教育センター職員

(3) 評価サービス

平成 28 年度参加学校・参加生徒数・認定証交付者数 H29. 3. 31 現在

地区	学校数	参加生徒数	認定証交付者数
東青	5 校	285 名	13 名
西北	1 校	8 名	0 名
中南	0 校	0 名	0 名
上北	4 校	322 名	0 名
下北	2 校	552 名	8 名
三八	4 校	858 名	2 名
合計	16 校	2,025 名	23 名

[成果と課題]

昨年度と比較し、参加学校数の減少や地区の偏りは見られたが、参加生徒数は増加した。自己のスキルを向上させたいと考える高校生が多くなったと推測される。参加した生徒が物怖じせずに、自分の意見を述べられるようになった等、生徒の変容の報告が寄せられている。

今後は、認定者の追跡調査を行う等、県内全高校への情報提供を行い、未登録校へ参加を働きかけるなど新たな取組の思案が必要である。

未来の青森県を担う若人育成講座

[事業目的及び概要]

青少年が自己肯定感を高め、主体的に行動できるようにするため、異年齢集団における活動をとおし、他者と協力し、相互に学び合う講座と演習を実施する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 事業内容：対象地域 東青地域(青森市)・中南地域(黒石市)

講座名	期日	会場	人数	内容・講師等
第 1 講座	5/29 (日)	県総合社会教育センター	13 名	講義「私の教育実践・児童への接し方について」 演習「アイスブレイクの実践」 講師 県総合社会教育センター職員
	7/10 (日)	黒石市立黒石東小学校	14 名	講義「寺子屋サンサンの目的」 「ボランティアの意義」 「避難場所の確認～危機管理について～」 演習「私たちが目指す寺子屋を考える」 「寺子屋運営に必要なこと①」 講師 県総合社会教育センター職員
第 2 講座	7/24 (日)	県総合社会教育センター	12 名	演習「仲間づくり～アイスブレイク～」 講義「コミュニケーション論」 演習「第 3 講座の準備」 講師 県総合社会教育センター職員
第 2 講座	7/24 (日)	黒石市立黒石東公民館	24 名	演習「仲間づくり～アイスブレイク～」 講義「コミュニケーション論」 演習「寺子屋運営に必要なこと②」 「寺子屋運営シミュレーション」 「寺子屋サンサン運営の準備」 講師 県総合社会教育センター職員
第 3 講座	8/1 (月) ～2 (火)	県立種差少年自然の家 他	27 名	8/1(月) (1) 蒼然平一里塚跡見学 (2) 八戸市博物館見学 (3) 八戸三社大祭見学 (4) キャンドルファイヤー、高校生自主企画 地域実践活動事例発表 8/2(火) (5) 南部せんべい焼き体験 (6) 県立三沢航空科学館見学・紙飛行機製作体験
第 4 講座	9/ 4 (日)	黒石市立黒石東公民館	6 名	演習「第 6 講座(実践活動)の企画立案」 講師 県総合社会教育センター職員

講座名	期日	会場	人数	内容・講師等
	9/11 (日)	県総合社会教育センター	7名	
第5講座	9/18 (土)	黒石市立黒石東公民館	9名	演習「第6講座(実践活動)の準備」 講師 県総合社会教育センター職員
	9/25 (日)	県総合社会教育センター	8名	
第6講座	10/2 (日)	県総合社会教育センター	34名	【実践活動】 (1)受付案内体験 (2)農産物・加工品等の販売体験 (3)カレーライス販売体験 (4)ポップコーン販売体験 (5)「こけす」の紹介体験
第7講座	12/17 (土) ～18 (日)	青森県観光物産館アスパム 他	16名	12/17(土) 施設等見学 (1)アスパム (2)ねぶたの家 ワ・ラッセ見学 (3)八甲田丸見学 (4)ベイエリア散策 演習「高校生の地域活動について」 講師 県立青森中央高等学校 教頭 秋田 敏博 12/18(日) 演習 (5)実践活動発表(サークル交流)会「学生たのし荘」 (6)ワールドカフェ

(2) 受講者人数等

ア 延べ受講者人数 170名

イ 参加学校数 13校(中学校2校 高等学校11校)

【成果と課題】

受講生が演習「寺子屋」の運営に必要な技術を学びつつ、これまでの経験をつなぎ合わせて、自由な発想で活動ができるように、受講生の主体性を育むことを意識して講座を運営した。特に第3講座の宿泊研修では、学びの成果を還元する目的で、見学場所の選定やアポイントメント、活動内容の決定、講座募集ちらしの作成もすべて運営高校生が担当し、かなり自信がついた様子だった。

今後は、市町村で、青少年が継続した活動を実施できるような体制を作っていく必要がある。

青少年異年齢交流モデル事業(寺子屋ありす)

【事業目的及び概要】

青少年の豊かな人間性や社会性を育むため、異年齢集団における交流活動をとおして、主体的に関わり、相互に学び合い、成長できる仕組みづくりを行うモデル事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 事業内容

ア 対象：青少年(小学生 中学生 高校生 大学生)

イ 実施期間等：毎週日曜日及び長期休業中 計46回

ウ 実施場所：県総合社会教育センター

(2) 参加者人数等

ア 延べ受講者人数 669名

イ 参加学校数 28校(小学校15校 中学校7校 高等学校4校 大学等2校)

【成果と課題】

異年齢の青少年が校種を超えて、互いに学び、成長する機会を設定することができた。定期的に交流することで、自分や仲間の良さ、強みを活かして、主体的に企画を考え、協力し合うなど、実践活動に向けての原動力となった。一部の青少年にとって、「寺子屋ありす」は、居場所となりつつある。

今後は、より地域に密着し、継続した活動につながるような仕組みづくりを検討していく必要がある。

「カダイ」は「マナビ」のチャンス！You 遊トライアル事業

【事業目的及び概要】

社会の急激な変化に対応するため、ふるさとあおもりが抱えている「ヒト・モノ・コト」に係る現代的課題等を分野別にし、自らが講座を探し、学ぶことにより、知的発見の面白さに繋げ、一人一人の主体的な学習意欲の向上に繋げるとともに、学習を地域で活かし、地域の様々な活動作りに取り組みながら、県民全体の社会参加活動の推進を図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 特別学習分野の設定

【平成 28 年度テーマ】ヘルシー！短命県返上・健康

(2) 学習形態

県民カレッジ認定講座(連携機関講座等)、県教育委員会からの推奨講座及びテーマに係る講座を自ら探し、講座、体験、視聴(YouTube 等含む)の形態により行う。

(3) 学習期間 1年間(9月～翌年8月)とする。

(4) 参加料及び参加条件

- ・参加料は無料
- ・あおもり県民カレッジに登録している。または、登録すること。
- ・メール(パソコン、携帯等)の送受信ができること。(講座情報の提供)

(5) 修了認定

ア 県民カレッジ認定講座、県教育委員会からの推奨講座及び県民が自ら探し受講した講座等について、1講座又は概ね1時間の受講につき1Cポイントを付与し、計50Cポイントを取得した者を修了候補者とする。*「C」はチャンス(CHANCEの「C」)

イ アの者について、A4版1枚程度の分野まとめレポートを提出させる。

ウ 事務局は50Cポイント以上の取得状況を確認し、学習記録及び分野まとめレポートをい診査の上、修了を認定する。

エ 修了を認定した者には、「修了証」を学長(青森県総合社会教育センター所長)名により授与する。

【成果と課題】

県民カレッジの活性化、県総合社会教育センター施設の活用(憩いの場へのウォーキングコース・ジョギングコース新設)、新規学生の開拓等に効果があった。

一方、参加方法について、本事業への登録と県民カレッジへの登録の両方が必要だったため、受付方法の簡略化が必要である。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

【事業の目的及び概要】

高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、当該団体と連携しながら、青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組むための方策を研究する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 団体募集(高校生の団体及び大学生の団体等)

(2) 団体の指定(H29.3.3現在)

【社会参加活動モデル団体】

No.	団体名	校種	主な活動内容	人数
1	キャリアサポートクラブ コンソーシアム	大学	高大連携キャリアサポート推進事業へのボランティア参加、高校生及び大学生のキャリア形成支援	480名
2	Lesta(レスタ)	大学	異年齢交流、小・中・高生へのキャリア形成支援等	30名
3	青森中央高校読み聞かせ 隊	高校	子どもたちへの絵本の読み聞かせ、三陸復興応援活動等	25名
4	学生団体「選挙へGO!!」	大学	若者の政治参加と投票率向上を目指す推進活動等	10名
5	LFV～人の可能性を広げる 団体～	大学	地域の子どもたちを対象とし地域の活性化のために活動	4名
6	学生インタビュー団体 WAO!!	大学	青森の活性化のために、地元の情熱的な人々をホームページで紹介	7名

【創作活動モデル団体】

No.	団体名	校種	主な活動内容	人数
1	A M D C (Aomori Minami Dance Club)	高校	・ダンス ・合同文化イベントでの発表	12名
2	アザラシ	高校	・歌及びダンス ・文化イベントでの発表	6名
3	田中の彼方	高校	・バンド ・文化イベントでの発表	5名

(3) 団体支援

- ①発表の場の提供
- ②情報発信の専用掲示スペースの設置
- ③ミーティング等を行うスペースの用意
- ④所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- ⑤社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- ⑥名義使用の許可
- ⑦研修室等使用料の減免

【成果と課題】

青少年社会参加活動モデル団体は昨年度から開始し、今年度は6団体が指定された。また青少年創作活動モデル団体研究事業は今年度の新規事業であり、3団体が指定され、高校生等の主体的な活動推進のため、計画的・持続的な流れを円滑に構築することができた。

今後は、さらに多くのモデル団体を募集するために、広報の強化等に取り組む必要がある。

学校と地域の協働実践セミナー

【事業目的及び概要】

学校と地域が連携・協働して未来を担う子どもたちを育むために、地域の中で学校支援を行っている人々の意識啓発やスキルの向上を目的とした研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

○対象：子どもと関わる地域活動実践者、学校支援ボランティア、PTA活動者、放課後子ども教室支援員、学校支援コーディネーター、教職員等

○受講者数：延べ204名

(1) 公開講演(全国の先進的な取組についての講演、情報交換など)

○開催日：7/20(水)

○会場：県総合社会教育センター

○参加者数：73名

○内容：講演：「地域の力で子ども達を育てよう」～We are シンセキ～
講師 大阪大学非常勤講師 ラジオDJ 山本 シュウ
情報交換会

(2) 地区研修会 (講義、演習など) 県内6地区開催

開催地区	内 容
三八	【開催日】 6/24(金) 【参加人数】 10名 【会場】 八戸市福祉公民館 【講義・演習】 「地域の力を学校へ～地域学校協働による活動のすすめ～」 弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子
下北	【開催日】 7/ 7(木) 【参加人数】 18名 【会場】 むつ市下北文化会館 【講義・演習】 「地域の力を学校へ～地域学校協働による活動のすすめ～」 弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子
上北	【開催日】 9/ 7(水) 【参加人数】 32名 【会場】 七戸中央公民館 【講義・演習】 「地域の力を学校へ～地域学校協働による活動のすすめ～」 弘前大学教育学部教職キャリア支援コーディネーター 特任助教 齋藤 厚
中南	【開催日】 9/28(水) 【参加人数】 17名 【会場】 弘前市総合学習センター 【講義・演習】 「地域の力を学校へ～地域学校協働による活動のすすめ～」 青森中央学院大学 教授 高橋 興

開催地区	内 容
西 北	【開催日】10/27(木)【参加人数】30名【会場】五所川原市民学習情報センター 【講義・演習】「地域の力を学校へ～地域学校協働による活動のすすめ～」 青森中央学院大学 教授 高橋 興
東 青	【開催日】11/1(火)【参加人数】24名【会場】県総合社会教育センター 【講義・演習】「地域の力を学校へ～地域学校協働による活動のすすめ～」 青森中央学院大学 教授 高橋 興

【成果と課題】

現在、地域の中で学校支援を行っている人々の意識啓発やスキルの向上をめざした研修会を実施した。参加者からは「学校だけではなく、地域全体で子ども達を育むことの大切さに気づきました。」等の声があがり、ほとんどの参加者から高評価をいただいた。今後は、地域の様々な人々に、学校・家庭・地域の連携・協働について関心を持っていただくために、研修会の周知について、工夫する必要がある。

教員力アップ！学校・家庭・地域連携講座

【事業目的及び概要】

学校・家庭・地域が連携することの重要性や実際に連携する際のポイントとなる点及び課題等を学ぶとともに、教員間の情報共有とネットワーク形成に資する事業である。

【事業内容及び結果】

- 対 象：小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員等
- 会 場：県総合社会教育センター
- 受講者数：23名
- 事業内容

開催日	内 容
7/25(月)	【講義】「社会教育と学校教育の関わり」 講師 八戸学院大学ビジネス学部 教授 石橋 修 【事例発表】「我が校での家庭・地域との連携事例」 (発表) 野辺地町立野辺地小学校 教諭 渡辺 隼人 深浦町立大戸瀬中学校 校長 長内 勝 県立柏木農業高等学校 教諭 竹谷 大介 県立むつ養護学校 教諭 山本 建 (講評) 県教育庁生涯学習課 学校地域連携推進監 渡部 靖之
7/26(火)	【情報提供】「公共施設と学校との連携事例」 (発表) 県近代文学館 文学専門主幹 西谷 ともえ 県立郷土館 学芸課 研究主査 福士 道太 県立美術館美術企画課 主幹 江渡 典之 県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室 文化財保護主査 岩田 安之 県立梵珠少年自然の家 社会教育主事 横山 仁志 【演習①】異校種間グループワーク「地域の教育力活用の実際①」 <テーマ>「日帰りキャンプを計画しよう」 【演習②】同校種間グループワーク「地域の教育力活用の実際②」 <テーマ>「〇〇フェスを開こう」

【成果と課題】

学校・家庭・地域が連携することの重要性について、講義・事例発表・情報提供・演習を通じて捉える機会として実施した。また、異校種間の情報共有や同校種間でのネットワーク形成を図る演習等、連携する際の視点を学ぶ場となった。今後は、事例に基づく課題について改善策を話し合ったり、実際に計画を立案したりして、より積極的に教育課程へ生かすことができるようにする。

絆でつながる家庭教育支援セミナー

【事業目的及び概要】

家庭教育支援に関わる人々の輪を広げるため、地域の絆の中での家庭教育支援につながる講座の企画・運営等の実践を通して、地域に密着した家庭教育支援者を育成する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 様々な角度から学ぶ、より実践的で継続性のあるセミナーの実施。

○実施場所：県内 2 箇所(青森市(県総合社会教育センター)、平内町(平内町立山村開発センター))

○実施回数：各 10 回

○参加者数：15 名(青森市 5 名、平内町 10 名)

○内容

- ・家庭教育支援講座 6 回(支援の実際について様々な角度から学ぶ)
- ・演習・実践 4 回(子育てサロンを活用)

○事業内容

回	開催市町 開催日	内 容
1	青森市 4/22(金)	演習「家庭教育支援者としてできることを考えてみよう」 進行 県総合社会教育センター職員
	平内町 5/24(火)	講義「地域によりそう家庭教育支援とは」 講師 大鰐町赤ちゃん子育てサークルわにっこクラブ 代表 阿保 香月
2	青森市 5/13(金)	講義「地域によりそう家庭教育支援とは」 講師 大鰐町赤ちゃん子育てサークルわにっこクラブ 代表 阿保 香月
	平内町 6/14(火)	講義「親子に寄り添ったカウンセリングの手法」 講師 青森県総合社会教育センター家庭教育支援員 松林 恵公子
3	青森市 6/10(金)	実践「親子で手あそびをしよう」 進行 青森市受講生、県総合社会教育センター職員
	平内町 7/19(火)	実践「おしゃべりタイム」 進行 平内町受講生、県総合社会教育センター職員
4	青森市 7/29(金)	実践「先輩ママと後輩ママとの座談会」 進行 青森市受講生、県総合社会教育センター職員
	平内町 8/23(火)	実践「おしゃべりタイム」 進行 平内町受講生、県総合社会教育センター職員
5	青森市 8/19(金)	講義「青森市での家庭教育支援の現状」 講師 特定非営利活動法人ココネットあおもり代表 沼田 久美
5	平内町 9/20(火)	講義「心の通うコミュニケーション～子どもを介して、私たちのコミュニケーションを考えよう～」 講師 青森県立保健大学 准教授 川内 規会
6	青森市 9/16(金)	講義「お母さん達をどうやってエンパワーメントしていくか」 講師 児童心理治療施設「青森おおぞら学園」園長 鳴海 明敏
	平内町 10/18(火)	実践「ハロウィン ～カボチャのお菓子バックを作ろう～」 進行 平内町受講生、県総合社会教育センター職員
7	青森市 10/21(金)	講義「心の通うコミュニケーション～子どもを介して、私たちのコミュニケーションを考えよう～」 講師 青森県立保健大学 准教授 川内 規会
	平内町 11/16(水)	公開講座「子どもの気になる行動と関わり方～発達障害への理解～」 講師 青森中央短期大学幼児保育学科 専任講師 松浦 淳
8	青森市 11/18(金)	講義「子どもの気になる行動と関わり方～発達障害への理解～」 講師 青森中央短期大学幼児保育学科 専任講師 松浦 淳
	平内町 12/13(火)	講義「お母さん達をどうやってエンパワーメントしていくか」 講師 児童心理治療施設「青森おおぞら学園」園長 鳴海 明敏

回	開催市町 開催日	内 容
9	青森市 12/2(金)	実践「ミニツリーを作ろう」 進行 青森市受講生、県総合社会教育センター職員
	平内町 1/24(火)	実践「親子で昔遊び ～お手玉作りをしよう～」 進行 平内町受講生、県総合社会教育センター職員
10	青森市 1/20(金)	講義「相談を深め次へのつながりを作るためには」 講師 上級教育カウンセラー 佐々木 順子
	平内町 2/7(火)	講義「未来につながる家庭教育支援者とは」 講師 特定非営利活動法人ココネットあおもり 代表 沼田 久美

(2) 共通スキルアップ講座

家庭教育支援の先進的で実践的な内容についての講座及び演習を実施した。

○開催日：11/30(水)

○会 場：県総合社会教育センター

○参加者：65名

○内 容

午前 【公開講演】

演題：「出番です！地域が育む子ども・家庭支援の力」

講師：NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長

NPO法人びーのびーの理事長他 奥山 千鶴子

午後 【パネルディスカッション、情報交換】

テーマ：「あなたも私も地域の支援者！語り合おうこれからの家庭教育支援」

コーディネーター：青森中央学院大学看護学部 准教授 玉熊 和子

パネリスト：NPO法人はちのへ未来ネット 代表 平間 恵美

大鰐町赤ちゃん子育てサークル わにっこクラブ 代表 阿保 香月

(特)十和田NPO子どもセンター・ハピたの 理事 新藤 潤一

【成果と課題】

今年度の家庭教育支援講座は、受講生の要望を取り入れ、現代の子育て家庭の現状や母親の悩み・ニーズの捉え方等について学び、受講者の満足度が高く有意義な研修内容になった。また、実践では、子育てサロンに参加する保護者の悩みやサロンへの要望を捉えて実践することで、より深く地域の今の子育ての現状と課題を知るきっかけとなった。受講生に一定のノウハウが蓄積されたことで、セミナー終了後も受講生自ら地域での家庭教育支援に生かそうとする気運が高まっている。今後も、家庭教育支援者の育成に努め、支援者が各地域で活躍しやすい環境を整えるための学習機会や活動場所の設置等、支援に関わる人たちの輪を広げていく必要がある。

家庭教育支援交流モデル事業(ほのぼのサロン)

【事業目的及び概要】

家庭に関する情報交換や悩み相談等とおして相互に学び合うことを目的に、日常的な親同士のつながりや子育ての先輩たちとの交流ができる仕組みづくりを行う事業である。

【事業内容及び結果】

○対 象：家庭教育支援に意欲的な人

○実施場所：県総合社会教育センターほのぼのルーム

○実施回数：月1回程度 計10回

○参加者組：延べ71組(親子)

○内容：家庭教育支援者による「おやこの広場(ほのぼのサロン)」の実施

【成果と課題】

今年度の子育てサロンの活動は、交流の場作りをメインとして行い、支援者と親子や親子同士の交流が功を奏し、安定した参加者を得て充実した内容で取り組むことができた。中でも、支援員の子育てについてのアドバイスが好評であることと、サロンが保護者にとって気分転換の場となっているのも参加を後押ししている。今後も、参加する親のニーズを的確に捉えながら、継続した活動につながるように、仕組みづくりを検討していく必要がある。

家庭教育支援コンテンツ制作事業

〔事業目的及び概要〕

家庭教育の重要性を訴えるとともに、子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを軽減することを目的とした学習教材(動画)を制作し、学習教材の活用方法や学習機会と情報の提供を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 家庭教育支援コンテンツ制作企画委員会委員

No.	氏名	所属等	備考
1	茂木典子	八戸学院短期大学 学長補佐	委員長
2	佐藤秀樹	こどものくに 園長	副委員長
3	福澤 諭	鶴田町立菖蒲川小学校 校長	
4	吉田圭子	青森県子ども家庭支援センター 部長	
5	笠井麻喜	青森県総合学校教育センター 指導主事	
6	谷本 歩	自宅サロン C o c o * L a b o 代表	

(2) 家庭教育支援コンテンツ制作企画委員会の開催(委員6名)

- ア 第1回企画委員会 5/9(月)
- イ 第2回企画委員会 6/21(火)
- ウ 第3回企画委員会 9/2(金)
- エ 第4回企画委員会 1/17(火)

(3) 学習教材(動画)の制作

- ア 一般家庭向け作品(各5分)
 - (ア) 出産直後の育児・悩みがいっぱい
 - (イ) スポーツを通じた世代間の交流
 - (ウ) ママの気持ち
 - (エ) パパの気持ち
 - (オ) 目指せイクボス
 - (カ) 育児は頼っていいんだよ
 - (キ) ゲーム・スマートフォンのフィルタリング
 - (ク) 肥満因子は3歳までに決まる!?
 - (ケ) ママさんたちの本音トーク
 - (コ) 知ってほしい!発達障がい

(4) 家庭教育支援コンテンツの活用

- ア 制作したコンテンツをホームページで配信
- イ ポスター・チラシの制作・配布
- ウ 各関係機関へDVD教材として配布
- エ 家庭教育支援団体、保育園、小学校での家庭教育学習会等での活用

〔成果と課題〕

コンテンツ作品を10本制作した。また、コンテンツ作品を使って小学校で出前講座を実施した。いずれもコンテンツ作品を見た方々からはアンケート等で高く評価されているが、「今まで見たことがなかった」や「知らなかった」などの感想も少なくなかった。今後、「どのようにして広く視聴してもらえるのか」「どのようにして活用できるのか」が課題としてあげられるので、課題解決に向けて様々な手段を講じる必要がある。

家庭教育相談事業

〔事業目的及び概要〕

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、就学前児童から高校生の保護者や家族を対象に、電話・メール等による寄り添い型の家庭教育相談を行う。

〔事業内容及び結果〕

- 対象：就学前児童から高校生までの子育て・孫育て中の親と家族
- 実施方法：電話相談・週2回 水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00~16:00
メール相談・24時間受付
- 場所：県総合社会教育センター電話相談室

- 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- 相談体制：県総合社会教育センター家庭教育担当職員及び家庭教育支援員が対応
- 相談件数：46件(電話相談42件、メール相談3件、面接相談1件)

[成果と課題]

全体的な相談件数は増えており、その相談内容は、問題行動、養育、しつけ、対人関係に関するものなど、多岐にわたるものであった。他の相談機関とも連携しながら、相談者の悩みや不安を軽減することに寄与することができた。また、県子ども家庭支援センター(アピオあおもり)との連絡会議を年2回開催して連携を深めることができた。

事業のチラシやポスターを配布する他、様々な機会を利用し、すこやかほっとラインについての周知を図っていく必要がある。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、市町村立図書館等に対して幼児、児童・生徒用図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

図書セットの内容	利用対象	前期		後期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 小学校	低学年	48	3,720	42	3,400
	中学年	47	3,560	42	3,380
	高学年	47	3,560	42	3,460
2 中学校	中学校	9	280	8	320
3 読み聞かせ絵本 児童書等	保育所等	54	6,150	54	6,330
4 大型絵本	読み聞かせ活動者	45	645	51	815
5 テーマ別 図書セット	小・中学校 特別支援学校	15	620	13	567
6 ブックトーク セット	小・中学校、高等 学校、特別支援学 校、図書館	8	220	11	247

[成果と課題]

市町村立図書館等による学校図書館等との連携を支援することができている。
毎年度、新しい本を利用してもらえるように、図書セット内容更新を課題としている。

高校生の読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

高校生(特別支援学校高等部を含む。)の読書活動推進を目的として、高等学校図書館等に対してキャリア教育の充実、教育活動を支援する図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

前期		後期	
配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
5	500	4	400

[成果と課題]

高等学校図書館等への支援を行うことができている。配本先拡充が課題である。

梵珠少年自然の家

梵珠少年自然の家主催事業(親子のつどい、子どものつどい)

【事業目的及び概要】

参加者相互のふれあいを深めながら、自然について学ぶとともに、自然に親しむ態度や豊かな心を育てることを目的として、自然の中で多様な体験活動を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 親子のつどい

活動名	期日	対象	参加者数	内容
①春・いっぱい	5/8(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	47名	自然観察、野草の採集と調理
②虫の世界をのぞいてみよう	7/30(土)～31(日)		64名	昆虫の採集と観察、昆虫クラフト
③秋・みつけた	10/2(日)		48名	ネイチャーゲーム、野外炊事、創作活動
④わくわく自然体験デー	10/30(日)		207名	野外活動、創作活動、野外料理、遊びのコーナー
⑤門松をつくろう	12/17(土)・18(日)		238名	本格門松づくり
⑥冬にとびだそう	2/4(土)～5(日)		15名	雪灯籠づくり、キャンドルナイト、スノーシューハイキング、チューブそり遊び

(2) 子どものつどい

活動名	期日	対象	参加者数	内容
①アウトドアライフ 2016in サマー	8/8(月)～11(木)	小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒	45名	野外ゲーム、ロープワーク、野外炊事、テント泊、梵珠大滝探検トレッキング、カヌー体験、キャンプファイヤー
②アウトドアライフ 2017in ウィンター	①1/14(土)～15(日)		11名	雪灯りキャンプファイヤー、イグルー作り、スノーチューブ体験、思い出クラフト
	②2/18(土)～19(日)		18名	雪上トレッキング、キャンドルサービス、スノーチューブ体験、野外炊事、思い出クラフト

【成果と課題】

「親子のつどい」では各分野に造詣の深い講師の指導による自然観察や昆虫採取などの自然体験活動や、参加者同士のふれあいを深める活動、親子が協力して取り組む活動など、多様な体験活動を実施した。いずれの事業においても参加者の満足度は高く、今年度も充実した体験活動を実施できたと考えている。中でも、「虫の世界をのぞいてみよう」は甲虫が活発に活動する7月下旬に実施時期を移したこともあり、昆虫採取の期待から募集初日で定員に達するという人気の高い事業となった。また、施設開放事業である「わくわく自然体験デー」も少しずつプログラムを改善しながら6年間続けたことで認知度も高まり、リピーターも多く満足度の高い事業となっている。「門松をつくろう」は3年連続200名を超える参加があり、参加希望に応じきれない状況が続いていることから、より多くの参加者を受け入れられるよう、会場レイアウト等を工夫する必要がある。一方、「冬にとびだそう」はインフルエンザの流行もあったためか参加者が大幅に定員を下回り、周知方法等の工夫が必要である。

「子どものつどい」では、夏は2年連続で施設のキャンプ場に泊まる定着型のキャンプとしたが、内容については新たに梵珠大滝の遡行を実施し、カヌー体験も昨年度とは違う場所で実施するなどプログラムの見直しを行った。その結果、連続して参加している参加者からは「昨年度とはプログラムに変化があってよかった」といった声が聞かれた。天候にも恵まれ参加者の満足度も高く、印象深い活動となったことがアンケートより窺われた。冬は昨年度と同様1泊2日で2回、内容を変えて実施した。どちらの事業においても、冬ならではの自然の豊かさと厳しさを体感できるプログラムを取り入れ、仲間と協力しながら活動することで、達成感・成就感が得られる内容とした。参加者の満足度は非常に高く仲間との交流の喜びや、自らの成長を実感している様子が窺われる感想が多く寄せられていることから、

事業の目的は達成できたと考えている。ただ、小学生の参加者が少なかったために大幅な定員割れとなったことから、プログラム内容や周知方法など次年度に向けて見直す必要がある。

自然体験活動支援事業

〔事業目的及び概要〕

自然体験活動の促進を図ることを目的として、身近な自然環境を活用して子どもたちが効果的に体験活動ができるよう、少年自然の家の職員が指導、助言などの支援を行う。また、青少年の自然体験活動を効果的に行うため、野外活動プログラムや創作活動プログラムの実技体験等に関する研修会を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	期日	対象	参加者数	内容
①レッツエンジョイ！ 自然大好きっず	4～5月、 10～3月	小学校、中 学校、特別 支援学校、 PTA、青 少年団体等	28 団体 1,809 名	スノーシュー体験、雪上運動会、雪灯籠づくり、イグルーづくり、棒パンづくり、アイスクリームづくり、梵珠ブーメラン、チャカポコけん玉、フォトフレーム、バードコール、森からのプレゼントなど
②自然体験活動研修会	夏季 5/24(火) 冬季 1/30(月)	青少年教 育、自然体 験活動に興 味のある方	夏季 21 名 冬季 11 名	夏季 創作活動プログラムの体験 冬季 雪を使った野外活動プログラムの体験

〔成果と課題〕

職員が直接出向いて支援する「レッツエンジョイ！自然大好きっず」では、利用団体数は昨年度より12 団体減で参加者も昨年度実績を若干下回ったが、各団体からの要望に応じ、棒パンづくり、段ボールオープンによるピザ作り、テント生活体験などの野外活動、チャカポコけん玉や森からのプレゼントなどの自然物を使った創作活動、雪上運動会やアイスクリームづくりなどの雪を使った活動など、多様な自然体験活動の場を提供することができ、利用団体からの評価も高かった。

「自然体験活動研修会」は、昨年度まで募集定員に満たない状況が続いていたため、夏季は創作プログラム体験会、冬季は雪を使ったプログラム体験をそれぞれ即日で実施した。参加者も大幅に増え、研修受講後に研修の成果を活かしたプログラムを所属団体で実施する動きも見られたことから、一定の成果があったと考えている。

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

少年自然の家での宿泊学習や自然教室等を利用団体が効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容や、施設・設備の利用の仕方等について学ぶとともに、利用する際の日課表を作成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

期日	対象	参加者数	内容
4/21(木)～22(金)	平成 28 年度利用 予定団体及び今 後利用を考えて いる団体の引率 者	112 名	講 義：宿泊体験学習における効果的な自然の 家の利用 実技体験：創作・野外・室内の各活動プログラム 説 明：施設利用に当たっての留意点他 演習・実践：日課表の作成

〔成果と課題〕

団体の引率者に日課表の検討材料としてもらうため、創作体験及び野外実技体験の時間を最大限確保して実施した。また、講義では自然の家を利用した宿泊体験学習の意義や安全管理に多く時間を配分した。

2 日目の演習では、自然の家職員との日課表の確認方法も定着してきていることから、予定していた時間内で円滑に進めることができた。利用団体へのアンケートによれば、この事業に参加したすべての団体が自然の家の利用は活動目的の達成に有効であったと回答しており、利用した青少年の自然や仲間に対する意識の向上に寄与することができたと考えている。

ファミリー防災キャンプ事業

【事業目的及び概要】

災害に備える態度及び実践的な対応能力を育成することを目的として、さまざまな災害の状況を想定した活動を親子で体験する事業である。

【事業内容及び結果】

期日	対象	参加者数	内容
11/14(土)～15(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	43名	実習：焚火で調理 講義・実習：けむりハウス体験、防災用泡剤の放水体験、野外でおこりうるケガの応急処置体験、身のまわりの物を使った負傷者搬送体験、新聞紙で作るスリッパ体験、アルファ米や備蓄用パン缶詰の試食体験、家庭に常備してあるもので作る調理実習体験、体育館を避難所とし段ボールの仕切りでの宿泊体験 演習：家族で防災ワークショップ

【成果と課題】

五所川原地区消防事務組合や青森県防災士会等の協力を得て、災害時を想定した様々な体験プログラムを提供することができた。特にけむりハウス体験や新型ポンプ車輛による放水体験などは子どもも保護者も目を輝かせて参加していた。

2日目は、2日間の体験を「絵日記」でふりかえり、体験で得た知識や気づきを各自が考えた後、相互に伝え合う防災ワークショップを実施した。

施設周辺自治体の広報誌に事業の募集案内を掲載してもらうなど、周知方法も工夫したことから参加者も定員を上回り、アンケートの評価も高かったことから一定の成果をあげることができたと考えている。

種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、子どもの祭典）

【事業目的及び概要】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもに育てることを目的として、自然体験活動や野外でのキャンプ活動、創作活動など様々な活動を体験する機会を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 自然と遊ぼう

活動名	開催日	対象	参加者数	内容
たねさしワールド 「春のハイキング」	5/15(日)	小・中学生とその保護者	127名	「春の自然を楽しもう」 種差海岸ハイキング等
たねさしワールド 「エンジョイ！海遊び」 ① ② ※2回開催	7/2(土)		120名	「海で思いっきり遊ぼう」 いかだ、カヌー、サンドクラフト、磯遊び等
	7/3(日)		144名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/15(日)		107名	「秋の自然を楽しもう」 秋の自然探索、綱渡りとハンモック等
たねさしワールド 「つくって新発見」	12/4(日)		125名	「つくって楽しもう」 ミニ門松づくり、ミニしめ飾りづくり等
たねさしワールド 「エンジョイ！雪遊び」 ①	1/28(土)	4歳以上の幼保・小・中学	113名	「雪で思いっきり遊ぼう」 (スノーチューブすべり、そり遊び、スノークラフト、せんべい焼)

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「エンジョイ！雪遊び」 ②	1/29(日)	生とそ の保護 者	123名	「雪で思いっきり遊ぼう」 (スノーチューブすべり、そり遊び、 スノークラフト、せんべい焼)
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/11(土) ～12(日)	小3年 ～4年	44名	子どもだけで泊まって楽しもう (仲良しタイム、館内ツリーイング 夜の森探検等)
	2/18(土) ～19(日)	小1年 ～2年	39名	

(2) 子どもの祭典

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプ	7/28(火) ～31(金)	小5 ～中3	40名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・アウトドアスポーツ ・海での活動 等
わくわくどきどき ウィンターキャンプ	12/25(日) ～27(金)	小5 ～中3	21名	・仲間づくりゲーム ・冬の野外炊事 ・星空ウォッチング ・森探検

[成果と課題]

自然と遊ぼうでは、四季折々の自然の中で自然体験活動を楽しみながら、親子のふれあいを深めたり参加者同士が協力したりする様子が随所に見られた。アンケート結果から参加者の満足度も極めて高い評価を得ることができ、心豊かでたくましい子どもの育成と親子の絆を深めることができたと感じた。

子どもの祭典のサマーキャンプは海水浴や夕食・アイスづくり等の体験を仲間と交流しながら楽しんだ。ウィンターキャンプは、ケーキづくりと野外炊事、星空ウォッチングなど冬の自然の中で友達と協力しながら野外活動を楽しんだ。自然の豊かさと厳しさを体感する中で、仲間と協力し達成した喜びや周囲への感謝の気持ちを表す行動が随所にうかがわれるなど、心豊かでたくましい子どもを育むという目的を達成することができたと感じた。

事業内容が認知され、リピーターの参加者も多い状況である。活動の安全を確保しながら多くの参加者を受け入れていきたい。また、プログラム内容や持ち方を工夫しながらリピーターを効果的に活躍させながら参加者全員が楽しめるように事業を充実させていきたい。

自然体験活動支援事業

[事業目的及び概要]

学校や身近な野外活動場所子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動の実地支援を行う。また、自然体験活動の指導者の資質向上を図ることを目的として、小中学校及び関係機関等の指導職員を対象に研修を行う事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月 及び 10月～3月	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、青少年団体 や成人団体等 ※15名以上の団体	114団体 延べ 16,806人	・種差少年自然の家のプログラムの中で出 前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、動物マ グネット、フライパンピザ等)
自然体験活動 研修会	6/4(土) ～5(日)	幼・小・中学校教員、 高校・大学生、その 他自然体験活動の 指導者等	20名	・アドベンチャーゲームや野外活動 ・野外炊事や創作活動等のプログラム実習 ・フリークライミング体験 ・磯遊び、いかだ活動及び緊急対応訓練

[成果と課題]

自然体験活動出前講座が広く認知され、イベントへの参加依頼が増えるなど利用団体数が大きく増加している。このことは、公民館、仲よしクラブ、PTA親子活動、児童館等の多くの方々にご利用していただくことで自然体験活動の場を提供でき、目的を達成することができた。

自然体験活動研修会は、他のスポーツ施設と連携した新企画(フリークライミング体験)で普段の活動では体験できない楽しさを十分体感するとともに新しい技術を身につけることができた。参加者の資質と技術の向上が図られた。また、いかだ活動におけるえい航訓練、転落者の救助訓練を実施し、緊急時の

引率者の対応、施設職員との連携のあり方について実践的に学ぶことができた。

募集定員を満たしていない状況であるが、参加者の満足度は高く概ね目的を達成できたと感じている。

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を利用する小・中学校の引率教員を対象に、自然体験・生活体験を通して児童・生徒の「生きる力」をはぐくむために必要な知識・技能の習得を目的として研修する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 開催日：4/18(月)～19(火)
- 対象：平成28年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員
- 参加人数：73名
- 内容：(講義)社会教育施設としての少年自然の家・利用の仕方
(実習)活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法
(演習)活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

〔成果と課題〕

限られた時間の中で参加者は講義や説明・自然災害等による緊急時の安全対策の確認・プログラム実習・打合せ等に意欲的に取り組んでいた。結果、宿泊学習が集中する6月から9月の天候急変によるプログラム変更対応等を確認したことで、大きな混乱や事故等がなく活動を進めることができた。

今年度は、講義で利用方法を簡潔にし、指導のポイントに重点をおき説明をしたところ「宿泊学習で活動をスムーズに進めることができ活動が充実した。」という利用者アンケートの回答を得るとともに、大きな混乱や事故等がなかった。このことから本研修が活かされたと感じており、目的は概ね達成することができたと考えている。

親子で学ぶ防災キャンプ事業

〔事業目的及び概要〕

避けることのできない自然災害に遭遇したとき、災害時における実践的な対応能力を育むことを目的として、小・中学生の家族を対象に行う研修事業である。

〔事業内容〕

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
親子で学ぶ 防災キャンプ	9/24(土) ～25(日)	小・中学生とその保 護者	9組 20名	・高齢者の避難及び日常生活等の疑似体験 ・三角巾の作り方の演習 ・プレーホールでの避難所体験泊 ・保存食づくり 等

〔成果と課題〕

家族ごとに高齢者等の避難疑似体験活動では、水運びリレー、ロープワーク、火起こし体験をグループごとにローテーションして行った。親子やグループの絆も深まり、いざというときに慌てない、協力する心が大きく芽生えたと感じた。また、火災における煙疑似体験、カセットコンロを使っての炊事体験、三角巾を活用した演習、避難所体験等、災害時に役立つ知識や心構えを学んだ。

参加者からは「自他の命を守るための知識、技術を学ぶことができた。」「人との関わりや協力、いざという時に役立つことを学ぶことができた。」「前向きな気持ちをもつことの大切さを学ぶことができた。」という感想があり、目的は概ね達成することができたと考えている。

東日本大震災から6年目、震災が忘れられようとしている現在であるが、風化させないためにも、この事業は大切であると考えている。参加者は少ないのであるが、募集期間、広報活動、内容等の改善を図り、参加者が増えるよう工夫していきたい。

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者の育成
- イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

生涯学習課

市町村の社会教育活性化支援事業

〔事業目的及び概要〕

市町村の社会教育主事等の力量形成とその専門性を生かした社会教育の活性化を目的として、生涯学習課と教育事務所が連携し、地域課題の検討会や研修会を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 市町村地域課題検討会

生涯学習課や教育事務所の職員が各市町村に出向き、市町村それぞれの課題に応じ、課題解決に向けた方策や手法を検討した。13市町村で開催し、必要に応じ県内の有識者を派遣した。

地区名	市町村名	課題(開催回数)等
東青地区	蓬田村	・家庭教育支援の充実(全4回)
	平内町	・総合型地域スポーツクラブ創設に向けた取組(全3回)
西北地区	つがる市	・地域社会全体で取り組む家庭教育支援の充実(全3回)
	中泊町	・第2次中泊町子ども読書活動推進計画の策定(全4回)
中南地区	弘前市	・無償ボランティアによる岩木地区社会教育の可能性追求(全5回)
	平川市	・若者が活躍できる仕組みづくり・ネットワークづくり ・若者の公民館利用の活性化(全3回)
	大鰐町	・シニア世代の町民の主体的な学習をどのように推進するか ・地域に誇りを持たせ、生きがいと活力のある地域社会をつくるための方策(全4回)
上北地区	六ヶ所村	・第3次生涯学習中期推進計画の策定について(全5回)
下北地区	むつ市	・「生涯学習地域人材データバンク」の作成(全3回)
	大間町	・第1次大間町子ども読書活動推進計画の策定(全4回)
	風間浦村	・家庭教育支援団体の育成及び活動の場の検討(全3回)
三八地区	階上町	・若年層を取り込んだ地域づくりに向けた地域アニメーターの発掘と育成(全4回)
	新郷村	・地域課題の「青少年の社会とのつながりの促進」「異世代間の交流による地域活性化」等を受け、その解決に向けた青年団の新規の立ち上げ(全4回)

(2) 地域人財ネットワーク形成ワークショップ

市町村域を超えた地域づくり人財の顔の見えるネットワークを形成するとともに、地域課題解決に向けた連携を促進するためのワークショップを各地区で2回開催した。

〈東青地区〉

【第1回】	6/13(月) 13:30~15:30	県総合社会教育センター
参加者	26名(NPO等12名、首長部局4名、市町村教委3名、地域県民局1名、県教委6名)	
【第2回】	12/14(水) 13:30~15:30	県総合社会教育センター
参加者	16名(NPO等6名、首長部局2名、市町村教委1名、地域県民局1名、県教委6名)	
〈協議テーマ〉	・家庭教育問題 ・魅力あるまちづくり ・公民館の活性化 ・都会から地方への移住 ・つながりづくり	
(第1回)	課題の重点化、具体的な取組アイデアと課題についてグループ協議	
(第2回)	課題を解決するための方策等についてグループ協議	
	《事例紹介》蓬田村インターンシップ事業の報告 蓬田村総務課 八戸 慎幸 ※蓬田村と青森県教育支援プラットフォーム実行委と連携して実施。	

〈西北地区〉

【第1回】	6/20(月) 13:20～15:20	五所川原合同庁舎
参加者	25名(NPO等7名、首長部局3名、市町村教委10名、県教委5名)	
【第2回】	1/13(金) 13:20～15:20	五所川原合同庁舎
参加者	28名(NPO等9名、首長部局1名、市町村教委12名、地域県民局1名、県教委5名)	
〈協議テーマ〉	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるまちづくり ・食によるまちづくり ・人口減少を止めたい ・つながりづくり ・歴史を活用して町を活性化 	
(第1回)	課題の重点化、具体的な取組アイデアと課題についてグループ協議	
(第2回)	「けの汁グランプリ」についてについてグループ協議 《事業提案》「提案します！ネットワークを生かした けの汁グランプリ」 板柳町教育委員会生涯学習課長 佐藤 文俊	

〈中南地区〉

【第1回】	6/30(木) 14:30～16:30	県武道館
参加者	19名(NPO等5名、市町村教委5名、県教委9名)	
【第2回】	1/12(木) 14:30～16:30	県武道館
参加者	19名(NPO等5名、市町村教委4名、地域県民局2名、県教委8名)	
〈協議テーマ〉	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策 ・地域資源を活用したまちの活性化 ・食と健康によるまちづくり ・世代間のつながりづくり 	
(第1回)	課題の重点化、具体的な取組アイデアと課題についてグループ協議	
(第2回)	課題を解決するための方策等についてグループ協議 (※地域と学校の連携・協働という視点も加えて協議) 《事例紹介》 「北陽小学校支援事業～北地区の取組」 《事例発表者》 黒石市北地区振興対策協議会 会長 種市 誠	

〈上北地区〉

【第1回】	7/11(月) 13:30～15:30	上北教育事務所
参加者	27名(NPO等9名、首長部局4名、市町村教委7名、県民局1名、県教委6名)	
【第2回】	1/12(木) 13:30～15:30	上北教育事務所
参加者	20名(NPO等9名、市町村教委5名、県民局1名、県教委5名)	
〈協議テーマ〉	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策 ・地域の魅力を生かす ・つながりによるまちづくり ・若者・高校生の活力を生かした地域づくり 	
(第1回)	課題の重点化、具体的な取組アイデアと課題についてグループ協議	
(第2回)	課題を解決するための方策等についてグループ協議	

〈下北地区〉

【第1回】	6/27(月) 13:50～15:50	むつ合同庁舎
参加者	27名(NPO等7名、首長部局4名、市町村教委11名、県民局1名、県教委4名)	
【第2回】	12/16(金) 13:50～15:50	むつ合同庁舎
参加者	19名(NPO等7名、首長部局2名、市町村教委4名、県民局1名、県教委5名)	
〈協議テーマ〉	<ul style="list-style-type: none"> ・大人社会をどうつくるか ・住民の生活向上 ・魅力あるまちづくり ・人口減少対策 ・若い世代の呼び込み 	
(第1回)	課題の重点化、具体的な取組アイデアと課題についてグループ協議	
(第2回)	課題を解決するための方策等についてグループ協議 《講義》『1年間で2万3000人がやってきた！「中泊メバルの刺身と煮付け膳」の取組み』 《講師》 中泊メバル料理推進協議会 事務局長 鈴木 メバルー	

〈三八地区〉

【第1回】	7/13(月) 14:20～16:20	八戸市福祉公民館
参加者	13名(NPO等3名、首長部局3名、市町村教委1名、県民局1名、県教委5名)	
【第2回】	12/14(水) 14:20～16:20	八戸市福祉公民館
参加者	22名(NPO等10名、首長部局3名、市町村教委4名、県教委5名)	
〈協議テーマ〉・大人社会をどうつくるか ・住民の生活向上 ・魅力あるまちづくり ・人口減少対策 ・若い世代の呼び込み ・人口減少対策 ・若者・子どもの活力を生かした地域づくり ・地域の魅力を生かす (第1回) 課題の重点化、具体的な取組アイデアと課題についてグループ協議 (第2回) 課題を解決するための方策等についてグループ協議 (※地域と学校の連携・協働という視点も加えて協議) 〈事例紹介〉 「小中野中学校地域密着型教育について」 〈事例発表者〉 小中野中学校地域密着型教育コーディネーター 中村 智子		

(3) 市町村社会教育主事等専門研修

市町村の社会教育主事及び社会教育関係職員に必要な資質・能力の向上を図る実践的な研修を開催した。

ア 集合研修

(ア)第1回 5/13日(金) 10:00～12:00 青森県立図書館 参加者 35名

○情報交換:「日頃業務・事業を担当するにあたって考えていること」

○講義:「学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策」

講師 文部科学省初等中等教育局参事官付 学校運営支援企画官 藤原 一成

(イ)第2回 2/21(火) 9:55～12:00 青森県総合社会教育センター 参加者 41名

○グループ協議:「学校と地域の連携・協働を進めるにあたっての教育委員会側の課題及び考えられる学校側の課題」

○講義:「学校と地域の連携・協働の体制づくりにおける社会教育主事の役割」

講師 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 課長補佐 井上 昌幸

イ 地区研修

(ア)東青地区

a 第1回 10/19(水) 13:00～16:00 青森県総合社会教育センター 参加者 10名

○事例発表①:「子どもたちが地域に誇りをもつためには」

発表者 イカす大畑カダル団 代表 長岡 俊成

○事例発表②:「100点満点の笑顔とおもてなし」

発表者 TMG48 トワダもてなしガールズ 代表 前田 美保子

○グループ協議:「我がまちで実践につなげるために～これが使える・これができる～」

(イ)西北地区

a 第1回 1/13(金) 10:30～14:00 五所川原合同庁舎 参加者 12名

○グループ協議:「実践事例についての情報交換、成果や改善点などに関する協議」

○講義:「ネットワーク型社会教育行政について」

講師 県教育庁生涯学習課職員

○事業提案:「提案します!ネットワークを生かした けの汁グランプリ」

講師 板柳町教育委員会生涯学習課 課長 佐藤 文俊

(ウ)中南地区

a 第1回 6/3(金) 15:00～16:30 平川市文化センター 平賀公民館 参加者 63名

○事例発表:「まち活ひらかわ未来塾の取組」

提供者 平川市教育委員会

○取組の現状についての紹介:「若者の社会参加について」 ※各市町村から紹介

○講義:「若者の社会参加を促す手法 ～社会教育施設の活用を通じて～」

講師 弘前学院大学文学部 准教授 生島 美和

(エ)上北地区

a 第1回 7/11(月) 9:30～12:00 上北教育事務所 参加者 10名

○講義:「上北管内の実践に学び合う」

講師 弘前大学教育学部 講師 松本 大

○演習：実践レポートの発表

b 第2回 12/13(火) 9:30~12:00 上北教育事務所 参加者 11名

○講義：「上北管内の実践に学び合う 2」

講師 弘前大学教育学部 講師 松本 大

○演習：「実践レポートの発表」

(オ)下北地区

a 第1回 6/27(月) 13:50~15:50 むつ合同庁舎 参加者 27名

○ワールドカフェ形式による協議

テーマ：大人社会をどうつくるか、住民の生活向上、魅力あるまちづくり、人口減少対策、若い世代の呼び込み

(カ)三八地区

a 第1回 5/27(金) 13:20~16:30 八戸市視聴覚センター 参加者 14名

○事例発表：「平成27年度管内市町村の生涯学習・社会教育事例発表」

提供市町 八戸市、五戸町

○講話：「地域づくりの担い手の育成と行政のできること」

講師 弘前大学 COC 推進室 助教 野口 拓郎

b 第2回 12/9(金) 14:00~16:30 八戸市福祉公民館 参加者 6名

○演習：「市町村の事業実践における現状・課題と今後の取組について」

○情報交換：「地方創生と県の取組について」「学校・家庭・地域の連携について」

【成果と課題】

地域課題検討会については、社会教育主事関係職員がその専門性を生かしながら、それぞれの市町村が抱える課題を解決するための方策や手法を様々な視点から検討することができた。今後は、各市町村の実態に沿った課題とともに、県として検討していくべき課題も選択枠に入れる必要がある。

地域人財ネットワーク形成ワークショップについては、NPO等の民間団体・市町村首長部局・市町村教育委員会の違う視点の考えや取組、情報等の意見交流の場として参加者の多くが楽しさや満足感を感じており、地域人財の顔の見えるネットワーク形成が図られている。本ワークショップにより新たなネットワークが形成され実際に事業実践が行われるなど、地域課題解決に向けた連携が促進された。

社会教育主事等専門研修の集合研修での講義については、社会教育の重要性について理解を深め、社会教育に主体的に携わっていこうという意欲を高める機会となった。また地区研修では、集合研修同様、満足度は概ね高く、「ネットワーク」「物事を考える視点」を広げることや、情報・課題を共有することに効果的であった。今後は、地域学校協働活動の推進にむけた研修や地域人財の顔の見えるネットワーク形成が図られる研修を行い、市町村の社会教育の活性化に向けた支援を行う必要がある。

総合社会教育センター

パワフルAOMORI！創造塾

【事業目的及び概要】

新たな地域づくり活動者の発掘と育成、仲間づくりの促進やネットワーク(つながり)の形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 講座

	期日	内容・講師等
第1回	8/20(土) ~21(日)	「オモイ」×「オモイ」=∞(無限大) 【特別講演】「あおもりの元気をつくる人づくり～未来を変える挑戦～」 講師 青森県知事 三村 申吾 【講義・演習】「わたしがコトをおこしたとき」 講師 まちづくりファシリテーター 稲村 理紗 【講義】「成功の秘訣～3人の師から直伝3つの取組姿勢～」① 講師 県総合社会教育センター所長 坂本 徹

	期日	内容・講師等
第2回	9/17(土) ～18(日)	ブラッシュアップ！わたしの「オモイ」 【講義・演習】「地域のおもしろがり企画」 講師 hati style 大粒來里紗 【講義】「成功の秘訣～3人の師から直伝3つの取組姿勢～」② 講師 県総合社会教育センター所長 坂本 徹
第3回	11/19(土) ～20(日)	あなたの「オモイ」を「カタチ」に！ 【講義・演習】「地域の魅力再発見！」 講師 路地裏探偵団団長 鹿田 智嵩 【講義】「成功の秘訣～3人の師から直伝3つの取組姿勢～」③ 講師 県総合社会教育センター所長 坂本 徹
第4回	12/ 3(土)	わたしのアクションプラン大自慢大会 【演習】塾生によるプレゼンテーション

(2) 会場

第1～3回 県総合社会教育センター・青森公立大学国際交流ハウス

第4回 県総合社会教育センター

(3) 塾生

・塾生 23名

(男性 12名、女性 11名)

(20代 13名、30代 6名、40代 4名)

・一日聴講生 延べ5名

[成果と課題]

宿泊をしながらの全講座参加を必須条件としたことから、当初は参加者の出足が鈍かったが、そのことが塾生の連帯を深め、学習と交流の深化につながった。

卒塾生へのフォロー(自主的な活動組織の立ち上げ支援)及び塾生の縦のネットワークを形成する体制を確立する必要がある。

公民館パワーアップ講座

[事業目的及び概要]

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化するため、公民館の運営に必要な基礎的かつ実践的な知識及び技術等についての研修を行うとともに、公民館関係職員相互の連携を図る事業である。

[事業内容及び結果]

○対象：公民館・市民センター職員、教育委員会職員、社会教育委員等

○場所：県総合社会教育センター

回数	開催日	参加人数	内 容
第1回	6/ 2(木)	54名	【講義】 「公民館運営の現状とこれから～学校支援の在り方を探る～」 弘前大学教育学部 名誉教授 佐藤 三三 【パネルトーク】「わたしの公民館運営のポイント」 コーディネーター 弘前大学教育学部 名誉教授 佐藤 三三 パネリスト 弘前市立中央公民館岩木館 専門員 庄司 輝昭 八戸市立根岸公民館 館長 江戸 清
第2回	9/ 5(月)	22名	【講義・演習】 「住民主体のまちづくり～地域の魅力を発見するために～」 青森大学社会学部 教授 工藤 雅世
第3回	11/10(木)	30名	【講義・演習】 「若者を地域活動に呼び入れる方法 ～若者活動支援や人づくり～」 NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和

回数	開催日	参加人数	内 容
第4回	2/6(月)	57名	【事例発表】「わたしのオススメ事業」 ①「浪岡野沢公民館まつり」 青森市浪岡野沢公民館 主任業務員 對馬 昌子 業務員 佐藤 真理子 ②「和とつながれあじがさわ」 鱒ヶ沢町公民館活性化事業 和とつながれあじがさわ 代表 上野 志津子 ③「六戸町青年講座」 六戸町文化ホール 主査 赤平 祐奈 ④「大畑地区ゼミナール」 むつ市大畑公民館 館長 佐藤 時男 ⑤「東っ子クラブ」 八戸市立東公民館 非常勤主事 田端 孝子 コーディネーター 弘前大学教育学部 講師 松本 大

※第2回・第3回は「生涯学習・社会教育関係職員研修講座中堅職員研修」との合同開催。

〔成果と課題〕

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化させるため、まちづくりや地域活動、公民館主催の講座で活用できる事例紹介等を含めた研修を実施した。アンケート結果から、受講者の実践に活用できるとの評価が得られ、満足度も高かった。また、受講者同士の意見交換が活発になされ、各公民館事業実施へのヒントとすることができた。

公民館機能の活性化に向けて、受講者のニーズを的確に把握し、より実効性の高い研修内容を継続して進める必要がある。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

〔事業目的及び概要〕

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上を目的として、地域課題の把握や具体的な解決方法を探るための理論学習、協働を活かした先進的取組事例の分析等の研修及び基礎的な研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 初任者研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員初任者

開催日	開催場所	参加者	内 容
5/19(木)	県総合社会教育センター	28名	(1) 県社会教育行政の方針と重点 県教育庁生涯学習課職員 (2) 生涯学習・社会教育の基礎知識 県総合社会教育センター職員 (3) 社会教育関係職員と社会教育施設の役割について 弘前市立中央公民館岩木館 専門員 庄司 輝昭 (4) 市町村の生涯学習・社会教育事業に係る情報交換 ～ となりのまちはどんなまち?!～ 県総合社会教育センター職員

(2) 中堅職員研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

○場所：県総合社会教育センター

回数	開催日	参加者	内 容
第1回	6/24(金)	18名	これからの社会教育の動向と生涯学習・社会教育関係職員の果たす役割 秋田大学大学院教育学研究科 教授 原 義彦
第2回	8/19(金)	22名	誰もが目を引くチラシ作成のテクニック 青森ビジネス専門学校 校長 有馬 昭彦

回数	開催日	参加者	内 容
第3回	9/5(月)	22名	住民主体のまちづくり～地域の魅力を発見するために～ 青森大学社会学部 教授 工藤 雅世
第4回	11/10(木)	30名	若者を地域活動に呼び入れる方法 ～若者活動支援や人づくり～ NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和
第5回	12/8(木)	25名	地域子育て支援の役割と課題 青森中央短期大学幼児保育学科 専任講師 松浦 淳

※第3回・第4回は「公民館パワーアップ講座」との合同開催。

(3) 地区研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

地区	開催日	開催場所	参加者	内 容
下北	5/24(火)	むつ合同庁舎	18名	「運の良い子どもの人生は、今日の親心で決まる」 (有)百歳の青春 代表取締役 松野 ミツ 「好きの力で先に進める つるた街プロジェクト」 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子
上北	5/27(金)	おいらせ町みなくる館	84名	「既存施設の活用と住民ネットワークを生かした地域の活性化について」 弘前大学大学院地域社会研究科 研究科長・教授 北原 啓司
中南	6/22(水)	平川市文化センター	58名	「地域の人と人をつなぐネットワークづくり」 イカす大畑カダル団代表 長岡 俊成 「学びを動機づけ、社会参加をすすめるために」 岩手大学 名誉教授 新妻 二男
三八	7/8(金)	八戸市児童科学館	12名	「事業や活動を推進するコーディネーターの育成とその活用について」 弘前大学COC推進室 助教 野口 拓郎
東青	7/13(水)	県総合社会教育センター	15名	「住民をその気にさせるまちおこし」 十和田バラ焼きゼミナール 舌校長 畑中 宏之 「ねぶたを核とした地域活性化」 青森観光コンベンション協会 センター長 工藤 正之
西北	9/6(火)	つがる市森田公民館	19名	「ネットワークを生かした地域の活性化について」 プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長 相馬 康穂

[成果と課題]

初任者研修・中堅職員研修・地区研修のいずれも、それぞれのテーマや課題に応じて実施し、アンケート結果から受講者の実践に活用できる成果が得られ、満足度も高かった。今後は、研修の系統性をより明確にし、実務に対する即効性を意識した研修内容を考慮して進める必要がある。

(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

- ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

生涯学習課

アクティブシニアによる地域の未来応援事業

【事業目的及び概要】

人口減少下における地域コミュニティの持続と活性化のため、社会参加活動に積極的に取り組むシニア世代及びその前段階にあるプレシニア世代を「アクティブシニア」と称し、アクティブシニアの持つ、知識、技術、経験を学校支援、家庭教育支援、子どもの地域活動支援等に生かすモデル事業を実施するとともに、アクティブシニアの掘り起こしを図るフォーラムや講座などに取り組む事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 地域の未来応援実践モデルの構築

次代の地域の担い手を育てるため、シニア及びプレシニア世代の持つ知識、技術、経験を、学校支援、家庭教育支援、子どもの地域活動支援などに生かすモデルを構築する。このため、県内の活動団体や実行委員会に委託してモデル事業を実施する。

ア 地域の未来応援実践モデル事業の実施

○県内14団体への委託により実施した。

・事業委託期間 7/11(月)～11/30(水) ※追加募集团体は、8/1(月)～12/31(土)

No.	地区	団体名	所在地	会員数	事業名	事業分野		
						学	家	地
1	東青	特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク	青森市	15	「体験！！」おどろ木アート広場」事業			○
2		地域交流育成福祉活動支援 おひさまの村	青森市	10	アフリカの伝統音楽に触れてみよう♪	○		
3		あおもり子ども劇場	青森市	11	うたってトントン ～わらべうたで旅しよう～		○	
4		NPO法人コミュサーあおもり	青森市	8	自己プレゼンで人生を切り拓こう！			○
5	西北	あじ・エンパワメントセンター	鱒ヶ沢町	3	アロハ キッズ ヨガを体験しよう！		○	
6		五所川原市ボランティア連絡協議会	五所川原市	10	地域で取り組む子育て応援ボランティア事業			○
7		むがしっこ語る会「ゆきん子」	五所川原市	21	「昔ばなし」を聞こう			○
8	中南	技術教育研究所	弘前市	6	中心市街地での学びを通じた多(他)世代交流の機会づくり			○
9		特定非営利活動法人スマイルプロジェクト	弘前市	10	お年寄りや障害者も参加できるコミュニティづくり事業			○
10		ひろさき科学マジック研究会	弘前市	10	科学する街プロジェクト	○		○
11		大鱒町子ども会育成連合会	大鱒町	13	大鱒町あじらの森自然体験キャンプ・交通安全啓蒙かかし作り			○
12	上北	六戸わがまち情報発信局	六戸町	12	わがまち情報発信事業			○
13	下北	認定NPO法人斗南どんどこ健康村	むつ市	19	下北ジオパーク学習支援事業	○		
14	三八	五戸町通学合宿実行委員会	五戸町	13	作って食べて地域の良さを学んでいこう！			○

※事業分野について

学：学校支援に係る取組 家：家庭教育支援に係る取組 地：子どもの地域活動支援に係る取組

(2) シニアのファシリテーション能力の向上

シニア及びプレシニア世代の社会参加活動をリードする新たな人材の掘り起こしを行うとともに、リーダー、コーディネーター及び実践者として必要となる、学びや活動を促す力・調整能力・合意形成を引き出す力を高めるための講座を実施した。

※ファシリテーション能力：学びや活動を促進する力、調整能力、合意形成を引き出す能力

ア 地域づくりファシリテーター養成講座の開催

○開催日時：7/16(土) 9:30～16:15

○会場：県立図書館

○参加者数：60名

○内容

・講義・演習：「参加者の主体性を引き出し、一歩踏み出せるファシリテーション」

講師 会議ファシリテーター普及協会(MFA)代表 釘山 健一

・事業説明：「モデル事業を進める際の留意点」

(3) 市町村と活動団体のネットワークの形成

市町村教育委員会担当者がアクティブシニアによる活動団体を支援し、未来につながる地域づくりを推進する仕組みをつくとともに、県及び市町村相互のネットワークを構築する。また、県内外の先進地活動団体との交流会を開催し、活動者の意欲の向上を図った。

ア アクティブシニア応援担当者会議の開催

ボランティア関係職員ネットワーク形成セミナー(主催：県総合社会教育センター)との併催で開催した。(詳細は P113(4)社会教育推進のための基盤整備に掲載)

イ 先進地活動団体との交流会の開催

	実施日・会場・参加者数	実施内容
県内コース	<p>【実施日】 9/10(土)</p> <p>【会場】 十和田市生涯学習センター 他</p> <p>【参加者数】 23名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 視察見学『TMG48による『まちなかお散歩ツアー』 十和田カトリック教会及び官庁街通りを視察見学 事例発表 「十和田もてなしガールズの活動について」 TMG48 代表 前田 美保子 「子どもたちの育ちを支える」 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子 交流タイム：参加団体自己紹介及び名刺交換
県外コース	<p>【実施日】 11/5(土)</p> <p>【会場】 いわて県民情報交流センター 他</p> <p>【参加者数】 37名</p>	<ul style="list-style-type: none"> もりおか町家物語館の見学 いわてアートサポートセンターの活動について いわてアートサポートセンター 理事長 坂田 裕一 事例発表 「元気なシニアを目指して」 NPO法人シニアパワーいわて 理事長 高橋 善紀 「Wizの活動について」 NPO法人Wiz コーディネーター 八田 浩希 「子どもの幸せ、親の幸せ、地域の幸せを目指して」 NPO法人いわて子育てネット 副理事長 両川 いずみ 交流タイム：参加団体自己紹介及び名刺交換

(4) 社会参加活動の拡大と普及・啓発

社会参加活動の意義やアクティブシニアの知識、技術、経験を地域活動に生かすことの重要性を伝え、シニア及びプレシニア世代の意識啓発を図るためにフォーラムを開催するとともに、事業報告書を作成し、配布した。

ア アクティブシニアによる地域の未来応援フォーラム

○開催日時：1/28(土) 13:00～16:00

○会場：県総合社会教育センター

○参集者数：70名

○内容

・講演：(演題)「地域のつながりと社会参加がシニアを元気に！」

(講師)東京都健康長寿医療センター研究所 研究員 倉岡 正高

・実践発表：平成27・28年度地域の未来応援実践モデル事業に取り組んだ団体による、ポスターセッション形式による実践発表。参加団体数17団体。

・グループワーク 講演、実践発表に関する感想や意見を参加者同士で共有。

イ 活動事例集の作成及び配付

○冊子名：「アクティブシニアが集まればたくさんできることがある！」

○作成数：1,500部

○作成時期：平成29年3月

○配布先：県内各市町村及び市町村教育委員会、県内各社会教育施設等

ウ 生涯学習フェア(10/2(日)開催)への出展

○出展内容：平成27・28年度地域の未来応援実践モデル事業実施団体の活動内容紹介(パネル展示)

[成果と課題]

モデル事業を通じて、社会参加活動に積極的に取り組みアクティブシニアの掘り起こしにつながるとともに、実施団体の報告からは中高年世代の経験が活動に生かされ、世代間交流が促進されたことが成果として挙げられていた。

また、ファシリテーター養成講座、先進地視察交流会、フォーラム等を通じてシニア・プレシニア世代の地域活動実践者の相互交流による活動意欲の高まり、モデル事業実践への応用が見られた。

課題としては、今後ともシニアの社会参加活動促進に向けて、活動者同士の相互交流が図られるような支援ができるよう学習機会の提供に取り組んでいく必要がある。

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

[事業内容及び結果]

学校名	期間	日数	内容	受講者数 (延べ数)
県立盲学校	7月	2日	点字入門と視覚障害者歩行援助	12 (19)
八戸盲学校	8月～9月	6日	点字・点訳・歩行体験・視覚障害者の進路・福祉情報	11 (38)
青森聾学校	6月～9月	7日	手話講座	26 (146)

[成果と課題]

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に、特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートによれば、「来年度参加したい」「体験をすることで点字や学校のことがよく理解できた」など、いずれの講座も満足度は高く、県民の多様な学習ニーズに対応できている。

一方で、講座開設校がある地区に限られているため、県内各地域で県民の学習ニーズにこたえられるよう、未開催地区での講座開設が課題である。

総合社会教育センター

元気青森人を創造するeラーニング推進事業

[事業目的及び概要]

いつでも、どこでも手軽に学べるインターネットによる講座「eラーニング」について各種学習教材の管理を行うとともに、これら教材の配信に係るサーバー機器等を維持管理する。

[事業内容及び結果]

インターネットによる学習教材の配信(eラーニング)

(1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ 計 125本 (アクセス件数：4,365件)

ア 公開講座 8本

イ ワンポイントアドバイス 16本

ウ	はたらく心	94	本	
エ	関係機関リンク	7	件	
(2)	あおもり学インターネット講座	計	43	本 (アクセス件数：2,830件) ※2/28 現在
ア	あおもりの自然	9	本	
イ	我がふるさとあおもり	10	本	
ウ	あおもり学特別講座	23	本	
エ	青森県の先人	1	本	
(3)	あおもり子育てネット	計	105	本 (アクセス件数：25,078件) ※2/28 現在
ア	家庭教育支援コンテンツ	50	本	
イ	家庭教育支援啓発教材	8	本	
ウ	センター企画テレビ放送番組	2	本	
エ	子育てワンポイントアドバイス	1	本	
オ	公開講座	1	本	
カ	子育て得情報	30	本	
キ	学習コーナー	13	本	

[成果と課題]

eラーニングコンテンツは年間を通じて定期的に利用されている。今後は、利用者の利便性をより高めるため、タブレット端末やスマートフォン等でも閲覧しやすくなるようにページ管理する必要がある。

学習情報の収集・提供事業

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報の収集及び提供を行うとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する。

[事業内容及び結果]

(1) 学習情報の収集・提供

4情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	1,814	件
	団体・サークル情報	1,414	件
	指導者人材情報	1,088	件
	視聴覚教材情報	20,214	件

計 24,530件 ※2/28 現在

・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	3,210	回
	団体・サークル情報	1,408	回
	指導者人材情報	1,388	回
	視聴覚教材情報	5,749	回
	全情報	654	回

計 12,409回 ※2/28 現在

・ありすネット検索回数	学習機会情報	1,979	回
	団体・サークル情報	411	回
	指導者人材情報	510	回
	視聴覚教材情報	1,445	回
	全情報	343	回

計 4,688回 ※2/28 現在

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等の維持管理・OSの更新を行った。

[成果と課題]

例年同様、学習機会情報や視聴覚教材の検索が多く行われている。しかし、Web経由での情報登録件数が低いことから、利用者側の情報登録方法を簡易にするなど、システムを改善していく必要がある。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業

[事業目的及び概要]

16mmフィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する。

[事業内容及び結果]

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 教育メディア利用セミナーの開催
 - 開催日：10/14(金)
 - 会場：県総合社会教育センター
 - 趣旨：教育の場における視聴覚メディアや情報通信メディアの利用促進と、その効果的な利用方法を研究することを目的とし、教育関係者の教育メディア利用に対する知識を高めるとともに、学校及び社会教育におけるメディア利用学習や地域の諸問題等について研究協議を行う。
 - 対象：一般県民、公民館等社会教育施設の職員、指導主事、社会教育主事及び教育委員会の関係職員、各地域視聴覚教育協議会関係者、地域視聴覚ライブラリー職員、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員等
 - 参加人数：81名
 - 内容：開会式
映画上映 映画「ふるさとがえり」上映
対話型ワークショップ
ファシリテーター 映画監督 林 弘樹
コメンテーター 前八戸市視聴覚センター 副館長 新田 隆
県立北斗高等学校 教諭 田中 耕治
 - 閉会式

- (4) 青森県視聴覚ライブラリー連絡協議会への加入
- (5) 視聴覚教材の購入 21本

[成果と課題]

教育メディア利用セミナーでは、参加対象を県民にも拡大したため、より多くの参加者からの意見を受け付けることができた。また、対話型ワークショップの際に上映した全国公民館セミナーで行われた映像作成研修の事例は、県内の社会教育事業担当者にも好評だった。

あおもり県民カレッジの運営

[事業目的及び概要]

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ア あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化
 - ・連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼。
連携機関数：691機関(体験施設146か所を含む)
 - ・訪問による新規連携機関勧誘活動を実施。
 - ・講座開催における協力などを通して、関係強化を推進。
 - イ 生涯学習支援のネットワーク構築
 - ウ 事務局の運営(県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務)
あおもり県民カレッジ学生数 21,018名(新規2,043名)
[教養学習コース 16,605名(新規1,353名)]
[子どもカレッジコース 4,413名(新規690名) うちジュニアコース3,990名(新規678名)]
- (2) 普及啓発事業
 - ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)
 - (ア)あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集
 - (イ)幼稚園、保育所、小学校、老人ホーム、企業、団体への訪問
 - (ウ)連携機関等イベントでの、県民カレッジブース出展による募集
 - イ 生涯学習フェア2016の開催10/2(土)
 - オープニング

- 大学生によるキャンパスライフ紹介(参加大学 11 校)
- あおもり県民カレッジ認定証交付式
- 学びのワークショップ(青森県に関するクイズワークショップの開催)
- あおもり県民カレッジ連携機関等による講座、実習、体験、展示、センター事業紹介等
- 我が社は学校教育サポーター登録企業等による出前授業・実演
 - 出前授業実践企業 青森愛犬美容専門学院、(株)明治
 - 青森朝日放送、フラワーブティック ショパン

○未来を逞しく生きる高校生応援事業による販売実習・展示・体験

○館内冒険スタンプラリー

入場者数 1,781 名

ウ 生涯学習HPの作成

(ア)生涯学習情報サイト<alinfo.jp>作成及び随時更新

(イ)連携機関の講座情報の更新

(ウ)地域キャンパス講座の情報ページの運用

(エ)「講座アーカイブ」を開設し、講座の様子をY o u T u b eに公開している

配信数 31 コンテンツ

(3) 学習情報提供・学習相談事業

ア 学習機会情報の収集及び提供

- ・連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼
- ・連携機関等訪問による講座情報の調査収集

イ 活動機会情報の収集及び提供

- ・ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供

ウ 学習相談の実施

- ・窓口・電話・F A X・郵便・Eメールによる学習相談の受付
- 相談数 704 件

エ 県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」の発行

- ・あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」発行(年7回)

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内6地区)開催

開催数 東青17回、中南8回、三八11回、西北13回、上北15回、下北8回

受講者数 のべ3,877名

イ ボランティア活用支援

- ・ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

講師登録数 75名

講座数 121講座 のべ1,032名

ウ 専門講座の開催

(5) 評価サービス及び学習成果の活用支援事業

ア 認定証・奨励証の交付

認定証交付数

教養学習コース 424名 子どもカレッジコース 61名

イ ボランティア証明書の発行

[成果と課題]

学生数について、教養学習コースは高校生スキルアッププログラム推進事業とのタイアップにより、また、子どもカレッジコースは出前教室の実施など指定管理者の取組により、いずれも増加している。また連携機関数も前年比で28機関増加(純増数)した。

一方で、単位認定申請数を増加させるため、連携機関との関係を強化し、多様化する県民の学習ニーズに対応できるよう、学習システムのあり方を見直していく必要がある。

インフォメーションプラザありすの運営

[事業目的及び概要]

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービス、図書資料等の閲覧サービス等の業務を行う。

[事業内容及び結果]

- (1) 窓口対応
- (2) 社会参加活動の事例紹介とマッチング
- (3) 社会参加活動支援センターの運営
- (4) 視聴覚教材貸出サービス
- (5) ポスター、チラシ、図書資料等の展示

[成果と課題]

利用者数は、学習スペースの新設及び継続的な確保により、新設した 28 年度前半は昨年に比べ約 2～3 倍となった。視聴覚教材の貸出に関しては、新着教材数、社会的ニーズの多様化等により減少傾向にある。また、月に 1 回のペースで、連携機関及びあおもり県民カレッジ学生による成果発表展示を行い、学習意欲の喚起と学習環境の整備を行った。引き続き、快適な学習環境の整備に努める必要がある。

チャレンジ先生の手作り講座

[事業目的及び概要]

誰もが「講師」に挑戦できる仕組みを構築することで県民の社会参加活動を推進するとともに、受講生と講師の「学び合いの場」を作ることによって、多様で質の高い学習機会を創出する。運営については市場原理を導入して活性化を図る。

[事業内容及び結果]

①7～8 月期			
開講希望講座数	20 講座	実施講座数	3 講座
②11～12 月期			
開講希望講座数	7 講座	実施講座数	3 講座
③1～2 月期			
開講希望講座数	5 講座	実施講座数	1 講座

[成果と課題]

学習意欲の高い受講生とともに内容の濃い講座が実施でき、講師が別の講座に受講生として参加したり、意見交換をしながら講座が進行されるなど、まさに現場は“学び合い”の場であった。一方で最小開講人数により、意欲がありながら開講できなかった講座も多々あり、今後の運営方法を再考する必要がある。

ボランティア活動支援機関連絡会議

[事業目的及び概要]

ボランティア活動を支援する機関のネットワークの構築・強化を図ることを目的とし、情報共有・情報交換を行う会議を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

あおもり県民カレッジの連携機関は、県民に広く講座を実施している機関、団体が構成されており、学習ボランティアという視点からボランティア活動支援に関する議題について意見交換した。

地区	日付	開催場所	参加団体数
中南	4/28 (木)	弘前市総合学習センター	14 団体
上北	5/13 (金)	十和田市現代美術館	7 団体
東青	5/16 (月)	青森県総合社会教育センター	44 団体
三八	5/26 (木)	八戸市総合福祉会館	15 団体
西北	5/27 (金)	板柳ふるさとセンター	5 団体
下北	5/30 (月)	むつ市立図書館	6 団体

[成果と課題]

ボランティア活動支援に関する現実的な悩みや疑問点を共有し、団体相互でアドバイスをするなど、一定の成果があった。今後は、このような情報交換に加え、将来に向けたネットワーク構築への具体的方策等を話し合う場にもしていく必要がある。

県立図書館

近代文学館 特別展開催

〔事業目的及び概要〕

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 特別展「青函を旅した文人たち」

○会期：7/9(土)～9/22(木)

○場所：近代文学館企画展示室

○内容：島崎藤村は1904(明治37)年7月、「破戒」出版の相談で義父を訪ねるため、青森から函館へと渡った。同年9月、石川啄木は野辺地に伯父を訪ねた後、青森から連絡船・陸奥丸に乗った。『三千里』の著者・河東碧梧桐は、1907(明治40)年に青森と北海道を往来している。宮沢賢治は1923(大正12)年夏、青函連絡船に乗り、樺太旅行へと出発。この旅で「青森挽歌」をはじめとする作品群を生み出した。1925(大正14)年に青森県内を巡遊した与謝野鉄幹・晶子夫妻は、1931(昭和6)年には函館へ旅行。石川啄木の墓参を果たし、今日、立待岬には夫妻の歌碑が置かれている。青森と函館、両地を旅した文人たちの足跡を貴重な資料とともに紹介する展示を開催。

○展示資料：133点(書画18点、書簡14点、原稿4点、自筆資料2点、印刷物9点、雑誌23点、図書63点)

○来場者数：4,186名

(2) 第1回文学講座

○期日：7/24(日)

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：講演「与謝野寛・晶子、海峡をわたる思い」

講師 榎引洋一(弘前市立郷土文学館企画研究専門官)

講演「石川啄木の青森・函館～浜薔薇の花の香りにいざなわれて～」

講師 山本玲子(啄木ソムリエ・岩手県文化財保護審議会委員)

○来場者数：56名

(3) 第2回文学講座

○期日：8/21(日)

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：講演「津軽海峡を越えた藤村……要吉、雨雀との出会いとその後」

講師 竹浪和夫(下北文化社代表)

講演「宮沢賢治・詩「青森挽歌」から童話「銀河鉄道の夜」へ」

講師 牛崎敏哉(宮沢賢治記念館副館長)

○来場者数：56名

(4) 日曜講座

○期日：9/11(日)

○場所：県立図書館研修室

○内容：講演「青函を旅した文人たちの諸事情」 講師 伊藤文一(青森県近代文学館室長)

○来場者数：22名

(5) 特別展パネル展

○期間：10/8(土)～1/20(金)

○会場：青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸・黒石高校・木造高校・青森高校

○内容：特別展の内容を13枚のパネルに再構成し、各会場で展示した。

○来場者数：10,192名

〔成果と課題〕

石川啄木原稿「雲は天才である」及び自筆履歴書(1907年)(いずれも日本近代文学館蔵)、『一握の砂』初版本、「日本一の代用教員ならむ」の記述のある石川啄木はがき(1906年)、島崎藤村の四詩集『若菜集』『一葉舟』『夏くさ』『落梅集』初版本、宮沢賢治の詩集『春と修羅』、『注文の多い料理店』初版本、与謝野晶子が名付け親となった板柳の安田花樹宛書簡(1925年初公開)といった資料を展示し、意外な文

人が青函を旅していたこと、その旅が日本のそして青森県の近代文学に重要な影響を与えていたことを紹介。青森県の近代文学になじみのない方々にも興味を持ってもらえるような分かりやすい解説、展示および広報の仕方が課題である。

近代文学館 企画展開催

〔事業目的及び概要〕

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 「三上強二寄贈資料展―津軽の碩学が残したもの―」
 - 会期：4/29(金)～5/25(水)
 - 場所：近代文学館企画展示室
 - 内容：平成27年1月に急逝した三上強二氏(1928～2015、青森市出身)寄贈の広範な文学資料を展示、文学者たちとの多彩な交流や青森県の文化継承と発展に寄与した足跡を紹介。
 - 展示資料数：203点(草稿3点、書画27点、書簡22点、印刷物2点、雑誌3点、図書146点)
 - 来場者数：1,427名
- (2) 「青森県俳句懇話会寄贈資料展」
 - 会期：2/25(土)～5/24(水)
 - 場所：近代文学館企画展示室
 - 内容：600点余りの資料を寄贈してくださった青森県俳句懇話会に感謝の意を表するとともに、その貴重な資料を展示し、俳句の持つ魅力を多くの県民に紹介。
 - 展示資料数：99点(原稿10点、書画81点、書簡2点、図書1点、工芸品2点、その他3点)
 - 来場者数：2,249名 *3/31までの来場者数

〔成果と課題〕

「三上強二寄贈資料展―津軽の碩学が残したもの―」では、戦後青森県立図書館に約30年勤務し、県内外の数多くの文化人と交流、日本図書館協会顧問や青森ペンクラブ会長を務め、青森県文化の語り部として知られた碩学・三上強二氏の寄贈資料を、平成元年から翌年にかけて「東奥日報」に連載された三上氏の随想「訪廬庵雑記」の記述と対応させて展示することで、資料の意味や価値を明示することができた。

「青森県俳句懇話会寄贈資料展」では、昭和34年に創設されて以来、半世紀以上にわたって青森県の俳句興隆に寄与した超結社の横断的組織「青森県俳句懇話会」から寄贈された600点余の資料の中から選りすぐりのものを展示するとともに、「青森県俳句のあゆみ」を俯瞰できるパネルを掲示し、青森県の俳句界がいかに盛んなものであったかを紹介することができた。

青森県の文学に興味を持ってもらえるようなテーマの設定、分かりやすい展示構成、解説にしていこうこと、これまで以上に広報に力を入れることが必要である。

アウトリーチサービス推進事業

〔事業目的及び概要〕

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 登録者数：26名(うち新規登録者数2名)
- 貸出：件数166件 冊数643点

〔成果と課題〕

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。また、サービス対象者の適用範囲を広げることができた。

課題としては、利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことがあげられる。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会)

[事業目的及び概要]

生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備するため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

[事業内容及び結果]

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

ア 第12期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(H26/8/21～H28/8/20)

○審議テーマ「ふるさとの良さ、あおもりの魅力を次代に伝えるための、学びと地域のつながりづくりの在り方について」に基づき審議した成果を報告書にまとめる。

○会議等の概要：第5回審議会 6/30(木)：第12期青森県生涯学習審議会報告(案)について
教育長報告 8/19(金)：報告書を手交

イ 第13期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(H28/8/21～H30/8/20)

○方針：県及び県教育委員会が実施する生涯学習・社会教育関連事業について調査し、生涯学習課が今後取り組むべき事業について審議する。

○会議等の概要：第1回審議会 11/7(月)：生涯学習推進をめぐる国と県の施策の動向について
審議テーマについて

第2回審議会 2/20(月)：第1回審議会における意見の整理について
若者を対象とした事業・取組について
テーマについての意見交換

[成果と課題]

第12期審議会では、若者や女性などの人財が、地域の魅力を理解し、地域の資源を生かした生業づくりや地域づくりに取り組むリーダーとして活躍できる社会の構築を目指し、「地域のつながりづくり」に焦点をあて、今後の生涯学習・社会教育行政に求められる方向性と方策を報告書にまとめ提案した。

第13期審議会では審議テーマを「あおもりで集い、生き生きと活躍できる持続可能な地域社会づくり」と決定し、今後審議を進めていく。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業

[事業目的及び概要]

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育推進に関する調査・研究を行う事業である。

[事業内容及び結果]

今年度は、若年層を対象に県外転出に至る動機や課題、本県への定住に対する意識などの現状を把握するため、一般県民3,000人を対象に調査を行った。

○調査テーマ：「若者の学習・生活体験と県内定住に関する県民の意識調査」

○調査対象：一般県民3,000人(18歳以上35歳以下)

○有効回答：1,052人(35.07%)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、調査研究顧問を委嘱した。

青森大学社会学部 教授 柏谷 至

弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊

○報告書：100部を印刷し、関係機関へ配付した。

[成果と課題]

若者の9割は青森県内で働きたいと考えていることや、小・中・高時代に自然体験や社会体験している若者は、青森に愛着を感じている割合が高いこと、多くの若者が職場環境に対し、ワーク・ライフバランスを大事にしたいと考えていることがわかった。また、県外に移住したことの無い若者や移住経験があるU・Jターン者の若者は、Iターン者よりも青森に愛着を感じ、青森県に必要な人材であると考えていることがわかった。

今後は、調査研究の成果を生涯学習関連施策・事業に生かしていく。

青森県社会教育委員の運営

[事業目的及び概要]

本県の社会教育推進体制の充実を図ることを目的として、社会教育法第15条に基づき青森県社会教育委員会を設置し、本県社会教育の現状と振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、県議を行うことを目的として会議を運営する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 第32期青森県社会教育委員

○委員：12名(うち、専門部会委員5名)

○任期：2年(H26/10/19～H28/10/18)

○第32期青森県社会教育委員の会議における調査研究テーマ

「学びとつながりを生み出す家庭教育支援の在り方」

○会議の概要

第3回専門部会 5/10(火) 調査結果の精査、調査研究報告骨子(案)について

第4回全体会 6/28(火) 調査研究報告骨子(案)について、社会教育関係団体補助について

第4回専門部会 7/26(火) 調査研究報告書(案)について

第5回全体会 9/ 5(月) 調査結果報告書(案)について

調査研究報告書提出 10/14(金) 議長・副議長から県教育長へ提出

○調査研究報告書の発行

・作成数：800部

・配布先：県内各市町村教育委員会、全国都道府県・政令指定都市教育委員会等に配布。

(2) 第33期青森県社会教育委員

○委員：12名(うち、専門部会委員4名)

○任期：2年(H28/10/19～H30/10/18)

○第33期青森県社会教育委員の会議における調査研究テーマ

「人口減少下における地域コミュニティ形成のための行政と民間の新たな連携・協働の在り方」

○会議等の概要

第1回全体会 12/5(月) 議長・副議長選任、調査研究テーマについて

第2回全体会 2/23(木) 専門部会委員の指名、調査研究の方向性について、社会教育関係団体補助について

[成果と課題]

第32期では、県内で家庭教育支援に取り組む8団体等を訪問調査し、分析・考察した結果を取りまとめ、学びとつながりを生み出す家庭教育支援の在り方に関する提言をまとめ、教育長に報告した。今後提言が社会教育関係者をはじめ、幅広く活用されるよう周知に努める必要がある。

第33期では、人口減少下における地域コミュニティ形成のための行政と民間の新たな連携・協働の在り方について調査研究を進めていく。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成

〔事業目的及び概要〕

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

〔事業内容及び結果〕

市町村の社会教育行政調査

市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査

「平成28年度青森県の社会教育行政」の作成配付(600部作成予定)

〔成果と課題〕

「青森県の社会教育行政」の作成にあたっては、体裁に注意をして、社会教育行政関係者が見やすく利用しやすいように編集を行った。

社会教育主事有資格者育成派遣事業

〔事業目的及び概要〕

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 社会教育主事講習(国立大学法人秋田大学)への派遣
研修期間 7/12(火)～8/5(金) ※7/12～7/15は宿泊研修(岩城少年自然の家)
派遣人数 教育事務所指導主事1名、中学校教員1名
- (2) 社会教育主事講習[B](国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣
研修期間 1/18(水)～2/23(木)
派遣人数 県総合社会教育センター指導主事1名

〔成果と課題〕

中南教育事務所の指導主事が秋田大学での社会教育主事講習を修了し、10/1付けで社会教育主事に発令された。

また、西北地区の中学校教員1名が社会教育主事有資格者となった。

社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育主事体制の充実を図っていく。

社会教育主事派遣事業

〔事業目的及び概要〕

町村等の社会教育行政及び社会教育指導体制の充実を図ることを目的として、社会教育主事の資格を有する学校職員を町村等教育委員会に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

○派遣先 上北地方教育・福祉事務組合

○派遣者数 1名

〔成果と課題〕

派遣社会教育主事と事務組合任用の社会教育主事及び社会教育担当職員が連携して業務遂行に当たり、社会教育指導体制の充実が図られている。

生涯学習専門講座派遣事業

〔事業目的及び概要〕

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

○派遣先 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

○講座名 社会教育主事専門講座1名、地域教育力を高めるボランティアセミナー1名

〔成果と課題〕

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、今後の業務に役立てることができた。

講座は、演習や事例研究が多く設定されていることから、今後も専門的教育職員を育成するため、引き続き派遣し、最新の知見を得る必要がある。

市町村の社会教育活性化支援事業(再掲)

(P92 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

社会教育主事等一般研修

(P92 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

在学青少年育成費補助事業

[事業目的及び概要]

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

高校生を対象とした講演会の開催

○内容：東京及びその近郊に在住する青森県出身者ならびに青森県にゆかりのある方々を講師に、高校生を対象とした講演会を開催した。

○実施主体と協力団体：東京青森県人会、青森県高等学校長協会

開催日	場 所	参加生徒数	内 容
9/20(火)	青森明の星高等学校	328名	演題：「宇宙からの視点」 講師：東北大学大学院 教授 千葉 柁司
	県立青森西高等学校	710名	
11/10(木)	県立十和田西高等学校	202名	演題：「ディスプレイ業との出会い」 講師：(株)乃村工藝社 執行役員営業開発本部長 兼平 慎
11/11(金)	県立鶴田高等学校	202名	
11/14(月)	八戸工業大学第一高等学校	901名	演題：「君に伝えたい3つのこと」 講師：(株)NHK出版 代表取締役社長 小泉 公二
	八戸学院光星高等学校	1,114名	

[成果と課題]

各後援会とも、講師が県内出身者であり、高校生にとっては、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどキャリア教育の一環として有益な講演であった。

高等学校から依頼された講演内容に合致した県内出身の講師を選定する必要がある。

青森県連合青年団活動費補助事業

[事業目的及び概要]

県内の青年による活動の振興を図るために、青森県連合青年団が行う事業に対し助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

青森県連合青年団が実施する下記の事業に助成した。

補助対象事業名	期日	開催場所	参加人数
第65回青森県青年大会 (主催事業)	9/18(日) *開催中止	東青地区	0名
第65回全国青年大会 (主催：日本青年団協議会)	11/11(金)～14(月) *不参加	東京都 (東京体育館他)	0名
第62回青森県青年問題研究集会 (主催事業)	1/21(土)～22(日)	青森卓球会館	8名

[成果と課題]

県青年大会への参加者が集まらず、全国青年大会不参加となった。県青年問題研究集会は、講師として日本青年団協議会監事の石井昌志氏による講演を行ったが、参加者が少なく、本来の目的である県内の青年たちの交流が果たせていない状況であることから、青年団事務局との連携を密にし、県内での活動を奮起させる必要がある。補助金交付等に係る手続きについては、青年団事務局と連絡を取り、滞りなく行われている。

総合社会教育センター

ボランティア関係職員ネットワーク形成セミナー

〔事業目的及び概要〕

ボランティア関係職員の専門性と資質の向上及びネットワークの構築を目的としたセミナーを開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 対象 市町村教育委員会及び首長部局担当者、市町村ボランティアセンター担当者、各市町村ボランティア連絡協議会等
- (2) 参加者総数 70名
- (3) 内容

会場	開催日	参加人数	内 容
青森	10/19(水)	21名	【講義】 地域課題克服のためのネットワークを広めよう！ ～人口減少・高齢化への適応に向けて～ 青森大学社会学部 教授 榎引 素夫 【事例発表】 むつ市市民協働まちづくり会議 むつ市総務政策部市民連携課 主任主査 山崎 学 愛の輪レクリエーション事業におけるネットワーク形成 平川市社会福祉協議会 主査 佐藤 毅信
八戸	10/21(金)	24名	【講義】 地域課題克服のためのネットワークを広めよう！ ～人口減少・高齢化への適応に向けて～ 青森大学社会学部 教授 榎引 素夫 【事例発表】 多賀城市市民活動サポートセンターの取組 多賀城市総務部地域コミュニティ課 副主幹 千葉 明宏 特徴的なボランティア活動について 十和田市社会福祉協議会 主任主査 藤田 智哉
弘前	10/24(月)	25名	【講義】 地域課題克服のためのネットワークを広めよう！ ～人口減少・高齢化への適応に向けて～ 青森大学社会学部 教授 榎引 素夫 【事例発表】 おらほの地域応援し隊 Gちゃんサミット 北秋田市教育委員会生涯学習課 参事 松田 淳子 「声の広報」におけるボランティア活動 黒石市社会福祉協議会 主事 毛利 洋平

・本セミナーはアクティブシニアによる地域の未来アクティブシニア応援担当者会議と兼ねて実施した。

〔成果と課題〕

ボランティア関係職員の専門性と資質の向上、参加者間のネットワーク構築を図ることを目的とし、事例発表を含めた研修を実施した。アンケート結果から、受講者の今後の実践に参考となるとの評価が得られ、満足度も高かった。また、受講者同士の意見交換が活発になされ、ネットワークづくりにつながった。

業種の異なる参加者間の情報交換や情報共有が一層活性化できるよう、ボランティア活動に関わる職員同士のネットワーク構築を今後も継続して進めていく必要がある。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P97 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

公民館パワーアップ講座(再掲)

(P96 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備

【事業目的及び概要】

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 受入資料数(H28/4/1～H29/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	16,384 冊
市町村等協力用	4,056 冊
近代文学館	3,591 冊
合計	24,031 冊

(2) 図書館利用状況(H28/4/1～H29/3/31)

図書館利用者数	308,439 名		
近代文学館利用者数	67,928 名		
年間利用資料数	一般閲覧室	157,677 冊	※アウトリーチサービス 身障者等への配本サービス
	児童閲覧室	48,246 冊	
	オンライン貸出	6,225 冊	
	新聞未合冊等	6,014 冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(643 冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	41,370 冊	
	計	259,532 冊	
年間登録者数	新規登録者数	3,399 名	※うち、アウトリーチ総登録者数を含む。
	総登録者数	23,232 名	

(3) 市町村図書館等への貸出の状況(H28/4/1～H29/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	4,791 冊
	県外公共図書館等	686 冊
	計	5,477 冊
団体一括貸出	28,008 冊	
集団読書用図書	200 冊	

市町村立図書館等職員研修事業

【事業目的及び概要】

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、初任者研修及び実務研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 青森県立図書館事業等担当者会議

ア 開催日	5/11(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 参加者	市町村立図書館等職員 28 名
エ 内容	青森県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明

(2) 初任者研修①

ア 開催日	5/25(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員27名、学校図書館業務担当職員11名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「図書館サービス概論等の講義」

(3) 初任者研修②

ア 開催日	6/8(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員27名、学校図書館業務担当職員2名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「郷土史、資料管理に関する講義」

(4) 初任者研修③

ア 開催日	6/23(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	市町村立図書館等職員33名、学校図書館業務担当職員2名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「児童サービス、著作権」

(5) 実務研修

ア 開催日	11/16(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 受講者	市町村立図書館、公民館図書室等の職員(館長を含む)及び学校図書館の業務を担当する職員、その他希望者
エ 参加者	市町村立図書館等職員33名、学校図書館業務担当職員2名
オ テーマ	図書館における利用者対応を考える
カ 講師	関東学院大学 社会学部 現代社会学科 准教授 千錫烈

[成果と課題]

青森県立図書館事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村立図書館等との連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の理念やサービスについて理解し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

また、実務研修では、市町村立図書館等から要望のあったテーマを取り上げることにより、市町村立図書館等のサービスの質の向上や、各館における取組みの見直し等、利用者サービスの向上に繋がった。

いずれの研修等も、各市町村立図書館等の職員のニーズを踏まえた研修内容の提供とよりわかりやすい説明、意見交換の場として活用していくことが今後さらに必要である。